

第2次安曇野市環境基本計画

令和4年度 年次報告書

2023年3月

安曇野市

目 次

1	年次報告書について	1
1-1	目的	1
1-2	記載事項	1
1-3	留意事項	1
2	第2次安曇野市環境基本計画について	2
2-1	環境基本計画の基本事項	2
2-2	安曇野市の環境の現状	2
2-3	安曇野市がめざす環境のすがた	2
2-4	望ましい環境をつくるための取り組み	2
2-5	計画の推進体制と進行管理	2
3	安曇野市環境行動計画（2018—2022）について	2
4	安曇野市環境基本計画実施計画書について	2
5	2022（令和4）年度の取り組み	3
5-1	安曇野市環境審議会	3
5-2	環境基本計画の推進	4
5-3	環境行動計画の推進	4
5-4	環境指標達成状況	3 3
5-5	参加と協働	3 4
6	その他	3 5
6-1	安曇野市環境基本計画庁内調整会議	3 5
6-2	安曇野市生物多様性アドバイザー	3 5
6-3	安曇野環境市民ネットワーク	3 5
7	参考資料	3 9

1 年次報告書について

1-1 目的

[安曇野市環境基本条例](#)（以下「条例」という）第10条に基づき、市の環境の現状や環境の保全と創造に関して行った施策について公表するものです。市の環境の現状や課題、この一年の取り組みについて市民・事業者の皆様と情報共有するとともに、その評価や反省点を今後の施策の展開につなげていくことを目的としています。

1-2 記載事項

[第2次安曇野市環境基本計画](#)（以下「基本計画」という）、環境行動計画2018-2022（以下「行動計画」という）に基づき、本市が2022（令和4）年4月1日から2023（令和5）年3月31日までの間に取り組んだ環境に関する施策の実施状況を記載しています。

なお、省エネ・省コストを考慮し、以降の記載は前述の条例・計画の参照を前提とし、基本計画で定めた環境指標の状況や、行動計画において重点的に取り組むものとして選定された全27のプログラムの経過と結果を簡潔に記載するものとします。

本書の記述についての不明な点や取り組みの詳細は、基本計画のほか、[安曇野市里山再生計画等の環境に関連する個別計画](#)及びそれらに基づく報告書を参照していただくか、各取り組みの担当課までお問い合わせください。

1-3 留意事項

本書に記載の計画等は、市ホームページ上に公開されています。インターネット上で本書を閲覧されている場合は、初出の箇所（[青字](#)で記載）をクリックすると掲載ページへのリンクが開きますので、必要に応じてご活用ください。

2 第2次安曇野市環境基本計画について

2008（平成20）年に制定した[安曇野市環境宣言](#)を基本理念として、より良い安曇野の環境を実現するための行動指針となるもので、環境の保全および創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、望ましい環境のあり方や環境施策の基本的な方向性などを示しています。また、本市の最上位計画である[第2次安曇野市総合計画](#)を環境面から推進する役割を担っています。なお、2022年度に中間見直しを実施しました。

2-1 環境基本計画の基本事項

基本計画策定の背景、第1次基本計画の評価、第2次基本計画の基本的事項について記述しています。詳細は、基本計画第1章（P1-18）を参照してください。

2-2 安曇野市の環境の現状

安曇野市の概況、自然環境、生活環境、資源循環・地球環境、参加・協働について記述しています。詳細は、基本計画第2章（P19-56）を参照してください。

2-3 安曇野市がめざす環境のすがた

安曇野市の環境づくりに向けて、望ましい環境像・基本目標、環境指標、計画の体系について記述しています。詳細は、基本計画第3章（P57-64）を参照してください。

2-4 望ましい環境をつくるための取り組み

取り組みの基本的な考え方、取り組みの推進（個別目標）、重点取り組みの推進について記述しています。詳細は、基本計画第4章（P65-102）を参照してください。

2-5 計画の推進体制と進行管理

推進体制、進行管理、その他の計画推進方法について記述しています。詳細は、基本計画第5章（P103-111）を参照してください。

3 安曇野市環境行動計画（2018-2022）について

基本計画で定めた51の重点取り組みのうち、目標を数値で把握できるものを中心に27のプログラムを抽出し、その目標達成のための具体的な進行管理の方法を示した行政計画の一つです。なお、計画期間が終了したため、2023年度から2027年度を計画期間とする行動計画を2023年3月に策定しました。今後、社会情勢の変化等により、随時見直しを行います。

行動計画で選定した取り組みの実施状況は、本書6ページ以降に掲載しています。

4 安曇野市環境基本計画実施計画書について

行動計画で選定した取り組みをプログラム化し、一年間に実施する内容を具体的に示した計画書です。進行管理シートにより目標や結果、課題を管理し、見出された改善点を翌年の計画に反映します。

5 2022（令和4）年度の取り組み

本年度の取り組みを条例に基づくもの、行動計画に基づくもの、基本計画の基本目標の一つである「参加と協働」に基づくものに区分し、順次記述します。

5-1 安曇野市環境審議会

[環境審議会](#)を以下のとおり開催し、環境の保全及び創造に関する事項について審議しました。

期 日	回 数	内 容
2022（令和4）年 4月22日	第1回	(1)令和4年度環境課の当初予算概要 (2)令和4年度安曇野市一般廃棄物処理実施計画 (3)第2次安曇野市環境基本計画の改定及び安曇野市環境行動計画の策定
6月3日	第2回	(1)第2次環境基本計画（見直し時）の目次構成 (2)第2次環境基本計画基本目標
7月8日	第3回	(1)環境基本計画 令和3年度 年次報告書 (2)環境基本計画 令和4年度 実施計画書 (3)市民・事業者アンケート結果 (4)第2次環境基本計画の見直し時方針・基本事項 (5)第2次環境基本計画の推進する取り組み（案） (6)地球温暖化対策実行計画（第5章）の検討プロセス
9月29日	第4回	(1)地球温暖化対策実行計画の検討の経過 (2)第2次環境基本計画（素々案）の全体構成 (3)地球温暖化対策実行計画（第5章）の内容
10月21日	第5回	(1)地球温暖化対策実行計画（第5章）の取り組みの内容 (2)第2次環境基本計画（素案）の修正など (3)生きもの調査 (4)安曇野環境フェア
11月18日	第6回	(1)安曇野市議会からの提言 (2)第2次環境基本計画（素案）（パブコメに提出する計画案の確認） (3)次期環境行動計画（2023-2027）における取り組み項目案
2023（令和5）年 2月10日	第7回	(1)環境基本計画 令和4年度 年次報告（中間） (2)太陽光発電設備の設置に関する条例の制定 (3)第2次安曇野市環境基本計画（2023改定版）のパブリックコメント結果及び最終案 (4)安曇野市環境行動計画（2023-2027）案
3月17日	第8回	(1)第2次安曇野市環境基本計画（2023改定版） (2)安曇野市環境行動計画（2023～2027）（修正案） (3)環境基本計画 令和4年度 年次報告（中間）

5-2 環境基本計画の推進

基本計画における基本目標4、個別目標15、主要施策47項目に基づく各種施策を展開しました。

5-2-1 重点取り組み

基本計画に定めた施策のうち、個別目標1から12にかかる51の重点取り組みについて、行動計画に選定したものを含め、各担当において取り組みを進めました。

5-3 環境行動計画の推進

基本計画に定めた51の重点取り組みのうち、環境指標に絡み、数値目標を定めて特に厳密に進行管理を行うべきものとして抽出した27のプログラムについての取り組み状況を次に示します。

○環境行動計画における重点取り組み一覧

種別	No.	重点取り組み	担当課・係
環境基本計画事業	1	シンボル種(オオルリシジミなど地域の生態系を代表する種)やレッドリスト種などの保護活動を推進する。	環境課 環境政策担当
	2	外来生物の分布状況を把握し、その悪影響に関する普及啓発を実施する。	環境課 環境政策担当
	3	悪臭防止法に基づく臭気指数規制の適切な運用を図る。	環境課 環境保全係
	4	管理不十分な空家などへの指導をする。	移住定住推進課 空家活用係
	5	広報などで分別の徹底を啓発する。	環境課 資源循環推進担当
	6	事業者に対しごみの分別、減量化、資源化を指導する。	環境課 資源循環推進担当
	7	分別方法を分かりやすく説明する。	環境課 資源循環推進担当
	8	安曇野市地球温暖化防止実行計画に基づき、省エネルギーに配慮した行動を行う。	環境課 環境政策担当
	9	地球温暖化防止の取り組みの「見える化」を促進する。	環境課 環境政策担当
	10	公共施設を建設する際に省エネ機器・設備を率先導入する。	財産管理課 施設経営担当
	11	緑のカーテンの導入を推進する。	環境課 環境政策担当
	12	住宅用太陽光発電の効果を検証する。	環境課 環境政策担当

種別	No.	重点取り組み	担当課・係
各分野における基本計画事業	13	薪の地産地消率向上を推進する。	耕地林務課 林務担当
	14	里山で生産される間伐材など「安曇野材」を活用できる生産・流通の仕組みづくりを行う。	耕地林務課 林務担当
	15	里山で活動するための技術・知識を身につけるための「さとぶろ。学校」の年間を通じた講座運営をする。	耕地林務課 林務担当
	16	松枯れ対策事業を継続して行う。	耕地林務課 林務担当
	17	農地を計画的に保全し、農業生産と田園景観の基盤を守る。	農政課 農村振興担当
	18	荒廃農地対策を行う。	農業委員会/農政課 農村振興担当
	19	県知事認定の「エコファーマー」制度の推進に協力する。	農政課 生産振興担当
	20	学校における食農教育を推進する。	農政課 農村振興担当/学校教育課 教育指導室
	21	鳥獣被害防止計画を策定(見直し)し、実施する。	耕地林務課 林務担当
	22	多面的機能支払交付金事業の運用・啓発を図る。	耕地林務課 耕地担当
	23	緑の恵みを感じることができる講座を開催する。	都市計画課 公園緑地担当
	24	景観条例や屋外広告物条例の運用・啓発を行う。	建築住宅課 建築景観係
	25	地下水涵養に資する手法等の調査・研究・試行を実施する。	環境課 環境政策担当
	26	雨水貯留施設の設置に対する補助を行う。	環境課 環境政策担当
27	デマンド交通「あづみん」、「定時定路線」の運行を行う。	政策経営課 企画担当	

【環境基本計画事業】			シンボル種(オオルリジミなど)地域の生態系を代表する種)やレッドリスト種などの保護活動を推進する。		
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート			No. 1		
担当：環境課 環境政策担当					
1. Plan (計画)					
目標	実施内容	具体的内容	予定時期	実施結果(数値)	期日等
[評価区分]	目標(数値目標)			[結果/目標](%)	
①	自然観察会の開催 年3回 延べ参加者90人以上	・自然観察会の開催	7月23日 8月20日 2月	3回・延べ78人	第1回 池のまわりの生きものたち(国営アルプスあづみの公園(楨金・穂高地区)、第2回 夜に活動する生きものたち(黒沢洞合自然公園(三郷小倉)、第3回 清流高瀬川で続くカジカガニ(高瀬川(明科))
[定量-2]				86.70%	
②	生物多様性アドバイザー連絡会議の開催 年3回以上	・自然保護事例の情報共有および対応結果の検討 ・安曇野市版レッドデータブック改訂に関わる調整 ・生きもの調査の準備、令和5年度実施内容の検討	5月13日 12月 その他数回	4回	・公共事業などの自然保護に関して報告を行い、助言を受けた。 ・安曇野市版レッドデータブックの改訂作業を令和4～5年度に実施中。 ・第4回 安曇野生きもの調査を令和4年度秋～令和5年度にかけて、準備も含めて実施。
[定量-1]				実施	5/13、7/19、9/29、11/21
③	安曇野オオルリジミ保護対策会議への参加 年1回以上	・オオルリジミ野外観察会支援 ・オオルリジミシンポジウム支援 ・会議への出席	5月21日 6月25日 3月	1回	・野外観察会は悪天候で中止。 ・シンポジウムでは今までの保護実績を紹介、市天然記念物指定後の保護についてのパネルディスカッションを実施した。
[定量-1]				実施	5/21(中止)、6/25
<small>※定量-1:実施した回数、実施しなかった回数 ※定量-2:実施回数/目標回数×100=90~100%⇒A 80~89%⇒B 30~89%⇒C 10~29%⇒D 0~9%⇒E 定性:良かった⇒A 良かった⇒B 良かった⇒C 良かった⇒E</small>					
3. Check (点検・評価)					
目標	達成状況	審議会の評価	成果		
[評価区分]			課題		
①	B	B		<small>・参加者アンケートに回答した組のうち、第1回は13/13組、第2回は9/10組、第3回は8/71組がよく分かった 又はないという回答があった。第2回は第1回より9/26に増加したことで、数値のキャンセルが発生した。 ・令和2年度から抽選としているが、参加者の一部から回数を増やして欲しいとの声が見受けられる。</small>	
[定量-2]					
②	A	A		<small>・第4回(7/19)で、安曇野市版レッドデータブック改訂に関して協力を要してきてオオルリジミの保護について、確認すべき市内の生物情報や改訂の進め方について、意見をいたすことができた。 ・今後、アドバイザーに役員が生じた際の対応を検討しておく必要がある。</small>	
[定量-1]					
③	A	A		<small>・シンポジウム(6/25)は約80人が来場し、オオルリジミの保護について多くの市民に周知することができた。また同会場において生きものたちの配布も実施した。 ・観察会(5/21)の参加者募集周知は広報あづみのやプレスリリースのみであったが、小中学生やその親などの比較的若い世代の参加申込が少なかった。</small>	
[定量-1]					
13. 情報の充実					
14. 学ぶ・体験する			15. 関連組織		
<small>・広報あづみの ・市ホームページ ・安曇野エコプログラム ・安曇野市版レッドデータブック</small>			<small>・安曇野市生物多様性アドバイザー ・安曇野オオルリジミ保護対策会議</small>		

【環境基本計画事業】			
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート			
担当：環境課 環境政策担当			
1. Plan(計画)			
目標	実施内容	具体的な内容	予定時期
[評価区分]	目標(数値目標)		
① [定量-2]	特定外来生物リポーターの募集・情報提供依頼 新規登録者 5 人	市広報紙、公式ホームページのほか、自然観察会等の機会を利用した募集案内	6/10 (通年)
② [定量-2]	駆除啓発に関する広報の実施 情報提供件数 50 件	市広報紙などによる駆除啓発 ・特定外来生物リポーター通信の発行	5/20 5月・12月
③ [定量-1]	市内道路などにおける駆除活動 駆除作業の実施	関係課のほか、安曇野建設事務所、土地改良区等と連携して駆除活動を実施	5月

No. 2 外来生物の分布状況を把握し、その悪影響に関する普及啓発を実施する。			
2. Do(実行)			
目標	実施結果(数値)	具体的な実施内容	期日等
[評価区分]	[結果/目標](%)		
① [定量-2]	実施 0%	・各区を対象としたアレチウリ等一斉駆除事前研修会の場等を活用し、リポーター募集や外来生物に係る情報提供を依頼した。	6月(通年)
② [定量-2]	実施 84%	・市広報紙などによる駆除啓発を行った。 ・特定外来生物リポーター通信の発行	5月 2月
③ [定量-1]	実施 100%	・安曇野わさび田湧水群憩いの池でオオカワヂンヤ等の駆除活動(2回)を行った。	7、9月

※定量-1:実施した⇒A 実施しない⇒E 計画どおり⇒C
 ※定量-2:実施数/目標数×100= 90⇒100%⇒A 60⇒80%⇒B 30⇒50%⇒C 10⇒20%⇒D 0⇒0%⇒E
 定性:良かった⇒A 悪かった⇒E

3. Check(点検・評価)			
目標	達成状況	審議会の評価	成果
[評価区分]			課題
① [定量-2]	E	E	一定数の特定外来生物生育状況報告が市に上がってくる。 特定外来生物リポーターの応募に伸び悩みが見られる。
② [定量-2]	B	B	一定数の特定外来生物生育状況報告が市に上がってくる。 特定外来生物生育状況報告を市に行う市民の裾野を広げる必要がある。
③ [定量-1]	A	A	池に繁茂していたオオカワヂンヤを駆除することができた。 駆除活動に参加する市民を増やしていく必要がある。

4. Action(改善)			
目標	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	
[評価区分]			
① [定量-2]	無	市広報紙、ホームページ等で特定外来生物リポーターの募集と情報提供依頼を継続して実施していく。	
② [定量-2]	無	市広報紙、ホームページ等で特定外来生物に関する情報発信を行い、市への生育状況報告へとつなげていく。	
③ [定量-1]	無	次年度以降も、関係団体、関係課等と特定外来生物の駆除活動を行う。	

環境審議会 意見	
13. 情報の充実	・市ホームページ
14. 学ぶ・体験する	15. 関連組織

【環境基本計画事業】			
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート			
担当：環境課 環境保全係			
No. 3 悪臭防止法に基づく臭気指数規制の適切な運用を図る。			
2. Do(実行)			
目標	実施内容	具体的な実施内容	期待日
① <small>[評価区分]</small> <small>[定量-1]</small>	臭気指数規制対象事業場への改善対策指導 臭気指数基準超過事業場 0事業場	市民・事業者向けに広報紙に掲載。また、苦情の内容・地域に偏りがあったため、関係部署とともに当該地域の経過や臭気指数規制を紹介するチラシを作成、配布した。	4月
② <small>[定量-2]</small>	臭気指数規制対象事業場への改善対策指導 臭気指数基準超過事業場 0事業場	悪臭防止法に基づき臭気指数規制対策事業者に対し改善を促すとともに、夏場に7事業場に対して臭気指数測定を実施した。結果、3事業場で超過。超過事業場に対して2月実施した追加測定では規制値内となった。	7~9月 2月
③ <small>[定量-2]</small>	公害監視員による巡回・監視 1回/週	公害監視員から提出された巡回報告書により、臭気発生状況、発生事業場(原因)を把握し、該当事業場に情報共有を行っている。事業者には、この内容を確認し臭気改善に取り組んでもらっている。	通年
<small>※定量-1: 実施した⇒A 実施しない⇒E 計画どおり⇒C ※定量-2: 実施数/目標数×100⇒90~100%⇒A 60~89%⇒B 30~59%⇒C 10~29%⇒D 0~9%⇒E 定件、良かった⇒A 良かった⇒C 悪かった⇒E</small>			
3. Check(点検・評価)			
目標	達成状況	審議会の評価	成果課題
① <small>[評価区分]</small> <small>[定量-1]</small>	A	A	市民・事業者に対し、悪臭防止について周知・啓発を行った。 特に課題なし。
② <small>[定量-2]</small>	E	E	臭気指数超過事業場に対し、臭気測定値を示し改善を促した。 超過事業場数の目標を達成できなかった。
③ <small>[定量-2]</small>	A	A	公害監視員が巡回することで、発生場所(位置)が確認できるため、詳細な指摘をすることができた。 特に課題なし。
13. 情報の充実		14. 学ぶ・体験する	
・広報あづみの ・市ホームページ		15. 関連組織	
4. Action(改善)			
目標	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	
① <small>[評価区分]</small> <small>[定量-1]</small>	無	寄せられた苦情内容から傾向等を把握し、必要に応じて商工会・工業会・農業団体等を通じて事業場に規制内容や事例などを周知するなどし、良好な生活環境の保全に取り組んでいく。	
② <small>[定量-2]</small>	有	関係課と連携して事業場の状況を確認、改善を促していくが、事業者の経営状況・判断にも影響されるなど、悪臭の解消には課題がある。僅かでも悪臭の低減につながる方法を模索していく。	
③ <small>[定量-2]</small>	無	公害監視員の巡回により悪臭発生場所(位置)を確認できるため、苦情等により職員が確認した場所とあわせて該当箇所を事業場に伝え、改善を促していく。	
環境審議会意見		広報等を活用した法律規制の内容の周知や、公害監視員による巡回、監視は継続して取り組みを進めてもらいたい。	

【環境基本計画事業】
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート

担当：移住定住推進課 空家活用係		No. 4 管理不十分な空家などへの指導をする。	
2. Do (実行)			
目標	実施内容	具体的な実施内容	期待時期
① 空家対策補助金の交付による空家利活用 と及び解体における環境保全の促進 補助金交付30件 [定量-2]	空家相談会、講座、空家空き店舗見 学会の開催 年3回以上	・広報及び空家所有者への個別周知によ り、空き家バンク活用と移住等による空家 利活用を促進するため、空家対策補助金 の利用向上を図る。 ・空家相談会、講座などを実施し関連する 制度を含め幅広く予防啓発など周知を図 る。空家空き店舗の見学会を行い、マッチ ングを強化し利活用を促進する。	通年
② 立ち入り調査に基づき適切な指導 特定空家の解消(2件以上) [定量-1]	・管理不全空家等への助言・指導・ 勧告による特定空家の解消	補助金制度は、令和4年9月に従来の442ニューから842ニュー(にリニューアル孤 立して申請を受け、 片付け清掃9件・貸家リフォーム6件・空家解体18件・ようこそ安曇野 5件・活かせよう地域資源1件・おかしり。安曇野へ1件・空家バンク支援 (登録者)2件・空家バンク支援(移住者)2件 空家啓発講座「予防・診断・活用」全3回(延べ参加者11名) 啓発冊子「安曇野」住まいの終活のススメ」ハンドブック」を活用 明科支所：専門家(司法書士・建築士・宅地建物取引士)の講 義、空家物件利活用事例の現地講座、個別相談会 特定空家等重点支援空家について、助言、指導を実施。 特定空家の解体 2件(明科)、不良住宅の解体 1件(福金)	4月～3月
3. Check (点検・評価)			
目標	達成状況	審議会の評価	成果
① [定量-2]	A	A	補助制度の拡充により、幅広いニーズに対応可能となり、解体による土地の有 効活用や環境保全、移住者による空家の利活用が図られた。 補助金全体の割合が地体であるため、活用可能な物件は、資源の有効活用の観点からも利活用を促し、移住 や地方回帰で増加する需要と多様化する活用希望者のニーズに対応する必要がある。
② [定量-1]	A	A	ハンドブックを活用し、所有者の課題解決に向け、専門家による講義の地、現地での講義、個別 相談会を組み合わせた上で、具体的なイメージがつかむことができたことなど好評であった。 参加者が少数であり、空家課題への意識が希薄である所有者への情報や課 題共有を効果的に図るため、一段の工夫が必要。
③ [定量-1]	A	A	地域環境や隣接地に影響を及ぼす特定空家や不良住宅の所有者に対する助 言、指導の成果により、自発的な取り組みにより解体が促進された。 認定されている特定空家解決に向けた所有者との交渉、支援。
13. 情報の充実			
・市ホームページ ・広報あづみの ・空き家バンク ・啓発冊子、動画、パンフレット	14. 学ぶ・体験する	15. 関連組織 NEX-T安曇野、明科駅周辺街まちづく り委員会、NPO法人安曇野ふるさとづ くり応援団他	
4. Action (改善)			
目標	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	環境審議会 意見
① [定量-2]	無	リニューアル拡充した補助金の利用促進のため、所有者及び移住者等利活用 希望者への広報等での周知を強化する必要がある。国の空家対策総合支援 事業を有効活用し、空家を地域の資源と生かすことで持続可能なまちづくりにつ ながる利活用の促進制度を令和5年度から取り組む。	
② [定量-1]	無	空家課題に対して、予防、管理、利活用、特定空家の解体など、総合的な事業展開が必 要であることから、引き続き、啓発の場として、講座や相談会、講演会などの機会を設 け、所有者や地域住民などと情報や課題の共有から意識啓蒙を図る必要がある。空家 活用の事例を冊子や動画で紹介するなど、所有者の利活用への機運を高める。	
③ [定量-1]	無	所有者の対応が異なる特定空家について、専門家や民間との連携した解決策の履 示やまめな連絡、相談を実施することで解体等による早期解消に努める。現に老朽化 が著しい空家の特定空家への認定を促進し、自発的な動きから早期化解決につながる よう、助言・指導・勧告・命令等状況に応じて適時、行政措置を実施する。	
環境審議会 意見		点検・評価の運用状況は全てAであるが、更に目標を高く持つ取り組み を進めてほしい。補助金内容の詳細な説明も必要であると思う。移住定住 の促進も重要である。 空家相談会、講座、空家空き店舗見学会については、内容を検証して今 後一段の工夫をしてほしい。	

【環境基本計画事業】			
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート			
担当：環境課 資源循環推進担当			
No. 5 広報などで分別の徹底を啓発する。			
2. Do (実行)			
目標	実施内容	具体的内容	予定時期
[評価区分]	目標(数値目標)		
①	広報紙、ホームページ等で分別の徹底・食品ロス削減等、ごみ減量化について啓発する	・ごみ減量化には欠かせない食品ロスの削減に向けて、広報紙、ホームページ、分別アプリ等でごみ処理の状況を公表し、減量化や資源化につなげる。	通年
[定量-1]	広報紙、HP、分別アプリの活用	・事業所からの申請が増えるよう事業所も補助金の交付対象であることを周知する。	
②	家庭用生ごみ処理機、コンポスター等の導入の推進	・購入補助金の交付 補助率：生ごみ処理機は購入額の2分の1、上限額1基につき9万円、生ごみ処理容器は購入額の9分の2、上限額1基につき3千円。	通年
[定量-2]	交付確定件数100件/年		
③			
[評価区分]	実施結果(数値)	具体的実施内容	期日等
[結果/目標](%)			
①	実施	広報紙で食品ロスの削減について啓発記事を掲載した。その他、ホームページや分別アプリで分別方法を案内し資源化を推進した。	通年
[定量-1]			
②	135	交付確定件数及び交付金額(最終) ・処理機 58件 1,348,200円 ・処理容器 58件 153,500円 ・物容器 19件 190,000円 合計 135件 1,691,700円	通年
[定量-2]	135%		
③			
[評価区分]	達成状況	審議会の評価	成果
			課題
①	A	A	広報紙やホームページでの啓発・周知を行うことができた。
[定量-1]			分別アプリ、LINEのAIごみ分別案内を活用した情報発信。
②	A	A	生ごみ処理機等への補助金交付確定件数は目標件数を上回った。
[定量-2]			事業所からの申し込みがないため、補助金の活用についてPRが必要。
③			
[評価区分]	13. 情報の充実	14. 学ぶ・体験する	15. 関連組織
	・広報あづみの ・市ホームページ ・資源物・ごみ分別促進アプリ		
4. Action (改善)			
目標	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	
[評価区分]			
①	無	引き続き、広報紙、ホームページ、分別アプリ、LINE等を活用し、ごみ減量化に必須となる食品ロスの削減に向けた啓発を行う。	
[定量-1]			
②	無	生ごみ処理機の補助金は、事業所への設置も交付対象であることを広報し、来年度は事業所からの申し込みも増えるようにしたい。	
[定量-2]			
③			
[評価区分]	環境審議会 意見	事業所の課題について究明してほしい。 家庭用生ごみ処理機、コンポスターに関する補助金があることを知らない人が多いので、回覧板で回すなど、周知を広げてほしい。	

【環境基本計画事業】			
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート			
担当：環境課 資源循環推進担当			
No. 6 事業者に対しごみの分別、減量化、資源化を指導する。			
2. Do (実行)			
目標	実施内容	具体的な内容	予定時期
[評価区分]	目標 (数値目標)		
①	事業系一般廃棄物の減量・資源化 R3年度比29.5tの減	<ul style="list-style-type: none"> 分別、減量化、資源化等ごみを減らしてあげるよう対応と協力をお願いする。あわせて、生ごみ処理機の補助の活用についても周知する。 事業者に対して、紙類、本くずは量利リサイクルセンターに納入できることを周知する。 	通年
[定量-2]			
②	収集運搬許可業者等との会議を開催 年1回以上	現状の問題点や課題等を共有し、解決に向けて取り組む。	6・3月
[定量-1]			
③			
[定量-1]			
3. Check (点検・評価)			
目標	実施結果 (数値)	具体的な実施内容	期日等
[評価区分]	[結果/目標] (%)		
①	昨年度比36.4t増加	<ul style="list-style-type: none"> 事業系ごみ減量化・適正処理の手引きにより、ごみの資源化や廃棄物の適正処理を案内した。 種高広域施設組合への事業系ごみ搬入量 (構成市町村合計) は、昨年度比36.4t増加。 	通年
[定量-2]	増加		
②	1回	収集運搬業者との会議は3月に実施。	3月
[定量-1]	実施		
③			
[定量-1]			
4. Action (改善)			
目標	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	成果
[評価区分]			課題
①	無	引き続き、事業者に対してリサイクルセンターの活用、生ごみ処理機器等補助金の利用等、ごみ減量化へ繋がる施策の周知を行う。	積極的な取り組みをしている事業者も増えてきた。事業者への効果的な啓発方法の検討。
[定量-2]			
②	無	収集運搬業務における現状の問題点や課題等を共有し、解決に向けた取り組みを行う。	問題意識の高まりも感じられた。
[定量-1]			特になし
③			
[定量-1]			
環境審議会意見		13. 情報の充実 ・広報あづみの ・市ホームページ	14. 学ぶ・体験する 15. 関連組織 ・安曇野市商工会

【環境基本計画事業】			
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート			
担当：環境課 資源循環推進担当			
No. 7 分別方法を分かりやすく説明する。			
2. Do (実行)			
目標 [評価区分]	実施内容	実施結果(数値) [結果/目標](%)	具体的な実施内容
① [定量-2]	ごみ分別促進アプリの普及促進と情報の配信 利用者数3,400件/年	4,079 120%	ごみ・資源物収集カレンダーの令和4年度版への差し替え、データの維持管理を行った。
② [定量-2]	環境フェア等における展示や出前講座等の開催、小学生に対する環境学習会の実施 年1回以上の開催	9 900%	・環境フェアではごみ減量化推進を啓発する展示を行った。 ・市内小学校9校の4年生が行った髙高クリーンセンターの施設見学に合わせ、ごみを減らすための工夫について説明した。
③			
※ 定量-1:実施した⇒A 実施しない⇒E 計画どおり⇒C 定量-2:実施数値/目標数値×100⇒ 90~100%⇒A 80~89%⇒B 30~59%⇒C 10~29%⇒D 0~9%⇒E 定性:良かった⇒A ふつふつ⇒C 悪かった⇒E			
3. Check (点検・評価)			
目標 [評価区分]	達成状況	審議会の評価	成果課題
① [定量-2]	A	A	資源物・ごみ分別促進アプリの利用や数は年々増えてきている。 イベント等でのアプリ周知が有効。
② [定量-2]	A	A	小学生を対象とした環境学習会では、独自に資料を作成し、ごみを減らす工夫や3Rについての説明を行った。 なし
③			
4. Action (改善)			
目標 [評価区分]	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	環境審議会意見
① [定量-2]	無	アプリ登録の周知を行い、利用者数の増と情報発信を行う。	13. 情報の充実
② [定量-2]	無	環境フェアでの展示や、環境学習会は引き続き開催に向けた準備を進める。	14. 学ぶ・体験する
③			15. 関連組織
環境審議会意見		継続してください。	
広報あつみの ・市ホームページ ・資源物・ごみ分別促進アプリ			

【環境基本計画事業】			
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート			
担当：環境課 環境政策担当			
1. Plan (計画)			
目標	実施内容	具体的な内容	予定時期
[評価区分]	目標(数値目標)		
①	エコアクション21年度未評価及び中間評価	取組結果のとりまとめ及び公表 内部監査実施 職員研修 中間評価	7月 8月 9月 11月
[定量-1]	環境経営レポートの作成		
②	エコアクション21職員研修(安曇野市職員版Eco検定)	ながの電子申請サービスを利用 各自設問に解答する形式で実施	10月
[定量-1]	741人(前年度値)		
③	市有施設のエネルギー使用量の見える化(迅速化、簡略化)	組織改編に伴うLAPSSの施設管理 アカウンタの変更、エネルギー使用量の報告、温室効果ガス排出量の見える化	通年
[定量-1]	地方公共団体実行計画策定・管理等支援システム(LAPSS)を用いた報告		

No. 8 安曇野市地球温暖化防止実行計画に基づき、省エネルギーに配慮した行動を行う。			
2. Do (実行)			
目標	実施結果(数値)	具体的な実施内容	期日等
[評価区分]	[結果/目標](%)		
①	実施済	環境経営レポートの作成、ホームページでの公表 内部監査の実施 職員研修の実施 中間評価の実施 更新審査の受審	B/A 8/30-31 11/7-11/25 12/27 1/12-1/13
[定量-1]	-		
②	766人	エコアクション21職員研修として、ながの電子申請サービスを利用し、各自設問に解答する形式で安曇野市職員版Eco検定を実施	11/7- 11/25
[定量-1]	103%		
③	実施済	LAPSSを用いたエネルギー使用量の報告、取りまとめ	通年
[定量-1]	-		
※定量-1:実施済⇒A 実施しない⇒E 計画途中⇒B⇒C 定量-2:実施数値/目標数値×100= 30~100%⇒A 60~89%⇒B 30~59%⇒C 10~29%⇒D 0~9%⇒E 定性:長かつた⇒A 長かつた⇒B 長かつた⇒C			
3. Check (点検・評価)			
目標	達成状況	審議会の評価	成果
[評価区分]			課題
①	A	A	内部監査、職員研修、中間評価の実施、更新審査の受審により、職員の使用量向上と環境経営レポートの認知度向上を図ることができた。 エコアクション21審査の受審終了に伴い、今後、独自の環境マネジメントシステムを構築していく必要がある。
[定量-1]			
②	A	A	前年度の参加者を上回ることができた。 部、課によって解答率に大きな差がある。
[定量-1]			
③	A	A	各課担当者にLAPSSにログインしてもらい、エネルギー使用量の取りまとめを実施した。 報告期限に入力を終えていない対象施設が見受けられる。
[定量-1]			
13. 情報の充実			
14. 学ぶ・体験する		15. 関連組織	
市ホームページ		エコアクション21中央事務局・地域事務局	

【環境基本計画事業】			
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート			
担当：環境課 環境政策担当			
No. 9		地球温暖化防止の取り組みの「見える化」を促進する。	
2. Do(実行)			
目標 [評価区分]	実施内容 目標(数値目標)	具体的な実施内容	期日等
① [定量-2]	環境家計簿モニターの募集 新規登録者 10世帯	広報紙、市ホームページなどでの募集案内	12/21
② [定量-2]	エネルギー使用量の集計 回収数 65世帯	・半年ごとの記録票の収集 ・結果のまとめ及び広報紙、市ホームページへの掲載、モニターへのお知らせ	7月 2月～3月
③ [定量-1]	地球温暖化対策実行計画の改定 SDGsなど新たな取り組みを追加	・アンケートの実施 ・安曇野市環境審議会における審議 ・パブリックコメントの実施 ・市ホームページへの掲載	5月・ 通年・ 12～1月・ 2月～3月
<small>※定量-1: 実施数/A、実施しない場合=C 定量-2: 実施数/目標数×100= 80～100%⇒A、60～80%⇒B、30～59%⇒C、10～29%⇒D、0～9%⇒E 定性: 良かった⇒A、ふつふつ⇒B、悪かった⇒E</small>			
3. Check(点検・評価)			
目標 [評価区分]	達成状況	審議会の評価	成果 課題
① [定量-2]	D	D	冬の暖房利用により、省エネや家計への意識が高まる時期(12月)にあわせ、広報を行った。 登録世帯増
② [定量-2]	A	A	環境家計簿と「CO2削減コンテス」を統合して実施。 回収率の向上と事業実施に伴うCO2排出量の削減
③ [定量-1]	A	A	地球温暖化対策実行計画を第2次安曇野市環境基本計画に組み込み、改定。 気候変動による危機意識を強く持ち、市全体でゼロカーボンの実現に向けて取り組む必要がある。
13. 情報の充実			
広報あつみの 市ホームページ	環境家計簿	14. 学ぶ・体験する	15. 関連組織 長野県産業環境保全協会 安曇野工業会 安曇野地球温暖化協議会など
4. Action(改善)			
目標 [評価区分]	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	
① [定量-2]	無	広報紙、ホームページ、マスコミ媒体等を広く活用し、参加者の増加と市民意識の向上を図っていく。また、職員が環境家計簿への参加や省エネへの関心を向上させるために、職員に「信州版」省エネガイドブック(長野県地球温暖化防止活動推進員有志作成)の周知を行う。	
② [定量-2]	無	参加者の増加と、「ながの電子申請サービス」の利用拡大による事業実施に伴うCO2排出量の削減を目指していく。	
③ [定量-1]	無	2030年度目標【CO2排出量50%削減(2013年年度比)】に向けて、施策を推進していく。	
環境審議会 意見	第2次安曇野市環境基本計画(2023改訂版)の温暖化対策の施策として進めてください。		

【環境基本計画事業】			
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート			
担当：財産管理課 施設経営担当			
No. 10		公共施設を建設・改修する際に省エネ機器・設備を率先導入する。	
2. Do(実行)			
目標	実施内容	実施結果(数値) [結果/目標](%)	期日等
[評価区分]	具体的な内容		
① [定量-2]	省エネ機器の採用 節電、節水の向上(100%)	11件 100%	4月~3月
② [定量-2]	冷暖房負荷の低減建材の採用 断熱性能の向上(新築100%)	4件 100%	4月~3月
③ [定量-1]	自然エネルギー設備の採用 環境負荷低減(新築100%)	1件 100%	4月~3月
<small>※定量-1:実施した⇒A 実施しない⇒E 計画しなかった⇒C 定量-2:実施数/目標数×100⇒90~100%⇒A 60~89%⇒B 30~59%⇒C 10~29%⇒D 0~9%⇒E 定性:良かった⇒A 良かった⇒C 悪かった⇒E</small>			
3. Check(点検・評価)			
目標	達成状況	審議会の評価	成果課題
[評価区分]			
① [定量-2]	A	A	使用状況に応じたLED照明器具、節水機器、冷暖房省エネ機器を採用した。 特になし。
② [定量-2]	A	A	新築案件だけでなく、改築でも断熱性の高い建材等を採用した。 特になし。
③ [定量-1]	A	A	新築案件について、太陽光設備を採用した。 特になし。
13. 情報の充実			
しゅん工メンテナンス作成支援		14. 学ぶ・体験する 15. 関連組織 対象外	
4. Action(改善)			
目標	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	
[評価区分]			
① [定量-2]	無	設備投資費と節電節水のバランスを意識し、使用状況に応じた器具を選定する。	
② [定量-2]	無	設備投資費と熱負荷軽減のバランスを意識し、断熱性能の高い建材等を選定する。	
③ [定量-1]	無	設備投資費、維持管理費のバランスを意識しつつ、自然エネルギーを活用する設備を選定する。	
環境審議会意見 第2次安曇野市環境基本計画(2023改訂版)の温暖化対策の施策として進めてください。 太陽光発電設備の導入は重点施策でもあるので、市が率先して姿勢をみせたほうが良いと思う。			

【環境基本計画事業】			
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート			
担当：環境課 環境政策担当		緑のカーテンの導入を推進する。	
2. Do (実行)			
目標	実施内容	具体的な内容	予定時期
[評価区分]	目標(数値目標)		
①	緑のカーテン講座の実施 年1回	地球温暖化及び緑のカーテンに関する講座の開催	5月
[定量-1]			
②	市施設における緑のカーテンの実施 38施設(前年度値)	苗の配布による取組推進 苗の育成に関する助言	通年
[定量-2]			
③	緑のカーテン写真展の実施 年1回	環境フェアでの緑のカーテン写真展の開催	10月
[定量-1]			
3. Check (点検・評価)			
目標	実施結果(数値)	具体的な実施内容	期日等
[評価区分]	結果/目標(%)		
①	実施済	「地球温暖化」～安曇野も例外ではありません～ (環境課職員) 緑のカーテン(ゴーヤ)の作り方 (NPO法人 あづみ野風土舎)	5月
[定量-1]	-		
②	40施設	市内インフォメーション及び苗配布により勸奨 育て方資料の配布	4～6月
[定量-2]	105%		
③	実施済	広報紙、ホームページへの掲載、チラシ配布による募集 環境フェアのほか、本庁舎PCで開催	10月 1月
[定量-1]	-		
※定量-1:実施した⇒A 実施しない⇒E 計画しなかった⇒C ※定量-2:実施数/目標数×100⇒90～100⇒A 60～89⇒B 30～59⇒C 10～29⇒D 0～9⇒E 定性:良かった⇒A ふつふつ⇒C 悪かった⇒E			
3. Check (点検・評価)			
目標	達成状況	審議会の評価	成果課題
[評価区分]			
①	A	A	参加者41人(前年度比+11) 参加者増
[定量-1]			
②	A	A	実施40施設(前年度比+2) 実施施設増
[定量-2]			
③	A	A	応募11件(前年度比+1) 応募者増
[定量-1]			
13. 情報の充実			
広報あづみの 市ホームページ 安曇野エコプラン.net		14. 学ふ・体験する	
		15. 関連組織	
環境審議会 意見		緑のカーテン講座 安曇野環境フェア NPO法人 あづみ野風土舎	

【環境基本計画事業】			
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート			
担当：環境課 環境政策担当			
No. 12 住宅用太陽光発電の効果を検証する。			
2. Do(実行)			
目標	実施内容	具体的な内容	予定時期
[評価区分]	目標(数値目標)		
①	太陽光発電システム設置への補助 補助金交付130件	1kwあたり20,000円(5kwを上限)とした補助金の交付	通年
[定量-2]			
②	太陽光発電システム設置補助金の認知向上 広報等での周知	広報紙、ホームページ、マスコミ媒体の活用	通年
[定量-1]			
③	グループパワーチョイス(共同購入)・既存住宅エネルギー自立化補助金事業(長野県)への協力 広報等での協力	県との情報交換 広報等への協力	4月
[定量-1]			
<small>※定量-1:実施した⇒A 実施しなかった⇒E 計画しなかった⇒C 定量-2:実施数/目標数×100⇒80~100%⇒A 60~89%⇒B 30~59%⇒C 10~29%⇒D 0~9%⇒E 定性:良かった⇒A 良かった⇒C 悪かった⇒E</small>			
3. Check(点検・評価)			
目標	達成状況	審議会の評価	成果課題
[評価区分]			
①	A	A	交付決定135件 地球温暖化対策、エネルギー情勢、防災の観点から、補助対象システムを拡大させる必要がある。
[定量-2]			
②	A	A	広報紙、ホームページを利用して、事業を周知 市民から、太陽光発電システム以外の補助金について要望があった。 ニーズを踏まえ補助対象システムを拡大させる必要がある。
[定量-1]			
③	A	A	広報紙、ホームページでの周知 県の補助金を周知することにより、一層の自然エネルギー導入の促進が見込める。
[定量-1]			
環境審議会 意見		13. 情報の充実	14. 学ぶ・体験する 15. 関連組織
広報あつみの 市ホームページ		環境フェア	

【各分野における基本計画事業】			
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート			
担当： 耕地林務課 林務担当			
No. 13		薪の地産地消費率向上を推進する。	
2. Do (実行)			
目標	実施内容	具体的な実施内容	期日等
[評価区分]	目標(数値目標)	具体的な内容	
①	安曇野産の薪供給体制の整備推進 体制整備推進のPU会議等の開催3回以上	・プロジェクト会議の開催 ・山林所有者や事業者との生産供給体制整備を目的とした交流及び検討 ・薪の生産・研修会等の開催	通年
[定量-2]	3回		
②	薪ボイラーへの薪供給 薪の提供量 年間300m ³	・しゃくなげの湯への薪の提供	通年
[定量-2]	201m ³		
③			
[定量-2]	67%		
<small>※定量-1: 実績値⇒A 実績値が計画値より10%以上超過⇒B 計画値が中止した⇒C 定量-2: 実績値/目標値×100⇒90～100%⇒A 60～89%⇒B 30～59%⇒C 10～29%⇒D 0～9%⇒E 定性: 良かつた⇒A 多少かつた⇒B 悪かつた⇒C</small>			
3. Check (点検・評価)			
目標	達成状況	成果	
[評価区分]		課題	
①	A	計画的にプロジェクト会議を開催。薪づくり講習会(1回)を計画し開催した。 薪材確保のための山林確保や薪生産場所、供給場所といったフィールドの確保	
[定量-2]			
②	C	松枯れ材の薪 201m ³ を供給した。 安定供給するための原木の確保。薪の使用量の減少。	
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
推進組織等 意見		(主な推進組織の名称: 里山再生計画推進協議会) 特に意見なし	
4. Action (改善)			
目標	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	
[評価区分]			
①	無	薪を確保するためのフィールド確保は難しいため、獣害や荒廃林といった問題を抱えた山林を所有者の意向を踏まえて整備。切り出された木材を薪材として利用する体制を構築する必要がある。	
[定量-2]			
②	無	供給量及び使用料が減少してきている。使用者側へ薪使用量の拡大を促していく。	
[定量-2]			
③			
[評価区分]			
環境審議会 意見		しゃくなげの湯への松枯れ材の薪提供について、なぜ薪提供量が目標に達しなかったのか分析してほしい。	

【各分野における基本計画事業】

環境基本計画 重点取り組み PDCAシート

担当：耕地林務課 林務担当

No. 14		里山で生産される間伐材など「安曇野材」を活用できる生産・流通の仕組みづくりを行う。	
2. Do (実行)			
目標	実施内容	具体的内容	予定時期
[評価区分]	目標(数値目標)	具体的内容	予定時期
①	里山木材活用プロジェクト会議等の開催 年5回開催	<ul style="list-style-type: none"> 木材供給調整 安曇野材PR冊子企画会議開催 安曇野材の情報提供 	通年
②	あつみの里山市の開催	<ul style="list-style-type: none"> 安曇野材の展示・販売 安曇野材のPR 新型コロナウイルス感染症防止対策と り実施 	11月
③			
[定量-2]			
<small>※定量-1:実施した⇒A 実施しない⇒E 計画しなかった⇒C 定量-2:実施数/目標数×100= 90~100%⇒A 60~89%⇒B 30~59%⇒C 10~29%⇒D 0~9%⇒E 定性:良かった⇒A 良かった⇒C 悪かった⇒E</small>			
3. Check (点検・評価)			
目標	達成状況	成果	課題
[評価区分]			
①	A	プロジェクト会議の開催3回、里山市実行委員会4回、住宅見学会2回 市場への流通や安定した供給体制の構築を研究していく必要がある。	
②	A	「あつみの里山市」を継続して実施していくことで安曇野材のPR及び利用促進に繋がる。 コロナ対策により事前予約制による人数制限が必要となってしまった。	
③			
[定量-2]			
環境審議会 意見		(主な推進組織の名称:里山再生計画推進協議会) 特に意見なし	
4. Action (改善)			
目標	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	
[評価区分]			
①	無	里山木材活用プロジェクト会議等の開催により安曇野材の利用状況などの情報共有が図られた。引き続き、プロジェクト会議により安曇野材の利用活用に向けた企画検討や情報供給を図っていく。	
②	無	第7回目となる「あつみの里山市」を開催しました。市民が安曇野材に触れ、買っていただき、利用いただくことで地域材の利用促進が図れた。今後も「あつみの里山市」を継続して開催していく。	
③			
[定量-2]			
環境審議会 意見		①~②についてあつみの里山市(イベント)の開催結果だけでなく、どのような人が安曇野材を購入したか、どのように活用されたかが分かる具体的なデータを提示してほしい。 ①について市場への流通や安定した供給体制の構築を研究していくのではなく、実際に構築してほしい。	

【各分野における基本計画事業】

環境基本計画 重点取り組み PDCAシート

担当： 耕地林務課 林務担当

No. 15		里山で活動するための技術・知識を身につけるための「さとぶろ。学校」の年間を通じた講座運営をする。	
2. Do (実行)			
目標	実施結果(数値) [結果/目標](%)	具体的な実施内容	期日等
① [評価区分] [定量-2]	2回 66%	・里山学びの環プロジェクト会議を開催し、里山活動に関心のある幅広い年齢層を対象とした企画を検討 2回 ・「さとぶろ。学校」運営のための会議開催	
② [定量-2]	6回(参加人数12名) 100%	・「さとぶろ。学校」 6講座開催 ・参加人数 12名	
③			
<small>※定量-1:実施した%A 実施しない%E 計画じが中止した⇒C 定量-2:実施数/目標数値×100= 90~100%⇒A 60~89%⇒B 30~59%⇒C 10~29%⇒D 0~9%⇒E 定性:良かつた⇒A ふつた⇒C 悪かつた⇒E</small>			
3. Check (点検・評価)			
目標	達成※ 状況	成果 課題	
① [評価区分] [定量-2]	B	プロジェクト会議 2回開催 プロジェクトメンバーが少ないため、メンバーを増やしていくことが必要。	
② [定量-2]	A	「さとぶろ。学校」6講の開催 12名参加 さとぶろ。学校受講後におけるの里山活動の支援	
③			
4. Action (改善)			
目標	変更の 必要性	結果の検証と次年度への展望など	
① [評価区分] [定量-2]	無	年間計画及び進行管理に基づき、いろいろな機会で開催していきたい。	
② [定量-2]	無	さとぶろ。学校を受講した修了生が、新たに里山で活動を進める新規グループづくりや、市内で活動を進めているグループ活動への参加などについて、働きかけや、きつかけづくりが必要。	
③			
環境審議会 意見		4.Actionに記載の内容は結果でなく展望を記載してほしい。	
推進組織等 意見		(主な推進組織の名称:里山再生計画推進協議会) 特に意見なし	

【各分野における基本計画事業】
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート

担当： 耕地林務課 林務担当

No. 16 松枯れ対策事業を継続して行う。			
2. Do(実行)			
目標 [評価区分]	実施結果(数値) [結果/目標](%)	具体的な実施内容	期待時期
① [定量-2]	603本(60%) 165%	<ul style="list-style-type: none"> 松枯損木伐倒くん蒸処理の実施 処理計画区域(三郷・堀金) 	通年
② [定量-2]	処理本数1本 100%	<ul style="list-style-type: none"> 薬剤散布による防除 実施計画面積5ha/年 	6月
③ [定量-2]	7本(70%) 142%	<ul style="list-style-type: none"> 樹幹注入による予防 処理区域5ha 	11月 ~ 3月
<small>※定量-1: 実施したA、実施しないB、計画外の中はC 定量-2: 実施数/目標数×100= 80~100%⇒A 60~89%⇒B 30~59%⇒C 10~29%⇒D 0~9%⇒E 定性: 良かった⇒A、ふつふつ⇒B、悪かった⇒E</small>			
3. Check(点検・評価)			
目標 [評価区分]	達成状況	成果 課題	
① [定量-2]	A	全体の伐倒くん蒸処理区域内(堀金・三郷)の枯れた松の処理 希少動植物への配慮。守るべき松林の範囲検討。	
② [定量-2]	A	有人ヘリによる散布を5ha実施 守るべき松林の範囲検討。希少動植物への配慮。	
③ [定量-2]	A	全木樹幹注入による予防ができた。 樹幹注入の効果期間の適正管理による継続的な実施。	
推進組織等 意見		(主な推進組織の名称: 松くい虫被害対策協議会) 意見: 大口沢の尾根沿いだけでなく、範囲を広げて樹幹注入ができないか。 回答: 尾根沿いには栄養分が少なく松以外の木が生えにくいいため、尾根沿いを樹幹注入で守っていきたく考えております。	
4. Action(改善)			
目標 [評価区分]	変更の 必要性	結果の検証と次年度への展望など	
① [定量-2]	無	年間処理本数1,000本は下回っているものの、その年により被害量の変動もあり、被害を抑制するに至っていない。費用対効果については、松くい虫被害対策協議会において検証を行っていく。希少動植物への配慮、守るべき松林の範囲も検討する。	
② [定量-2]	無	無人ヘリによる薬剤散布を令和3年度から廃止。薬剤散布に替わる対策として令和2年度から樹幹注入により範囲を限定して対策を実施。有人ヘリについては計画通り実施していく。	
③ [定量-2]	無	樹幹注入した松の枯損は少なく、注入できていない松の枯損が進んでいないが、全木注入が昨年度完了したことから、今年より継続的な更新が必要となる。	
環境審議会 意見		3.Checkと4.Actionの繋がりがわかりやすいようにしてほしい。	

【各分野における基本計画事業】

環境基本計画 重点取り組み PDCAシート

担当： 農政課 農村振興担当

No. 17 農地を計画的に保全し、農業生産と田園景観の基盤を守る。

1. Plan (計画)

目標 [評価区分]	実施内容 目標(数値目標)	具体的な内容	予定 時期
① [定量-2]	認定農業者数の確保・育成 認定農業者数270人	「人・農地プラン」の策定による担い手の掘り起こし 新規就農者の確保	2月～3月
② [定量-2]	集落営農組織の設立支援 集落営農組織数27組織	集落懇談会への参加による支援	通年
③			

2. Do (実行)

目標 [評価区分]	実施結果(数値) [結果/目標](%)	具体的な実施内容	期日等
① [定量-2]	認定農業者数293人 109%	新規就農者の確保、既存農業者に対する認定農業者制度の適用	通年
② [定量-2]	集落営農組織数27 組織 100%	相談受け付け	通年
③			

4. Action (改善)

目標 [評価区分]	変更の 必要性	結果の検証と次年度への展望など
① [定量-2]	無	今年度は目標値を達成できた。今後も農業従事者数の減少が続いていくと見られるが、次年度も認定農業者数の目標値は達成できるものと展望している。
② [定量-2]	有	集落営農を必要としているほとんどの地域では既に組織化が終わっているため、5年間ほど組織の新規設立がない状況であり、今後も同様と見ている。
③		

3. Check (点検・評価)

目標 [評価区分]	達成※ 状況	成果 課題
① [定量-2]	A	新規申請20件、再申請33件受理 農業従事者数の減少が続いていく中、目標人数を達成させるために、引き続き適切に支援策を講じて行く必要がある。
② [定量-2]	A	相談体制や助成制度の整備等の支援策を用意することができた。 組織の設立そのものは農業者の自主性に全面的に依らざるを得ない。
③		

環境審議会
意見

集落営農維持のために重要であり、後継問題も解決していかねばいけない。やり方に間違いがなくとも内容を検証してより良き方向に改善していく必要があると思う。

推進組織等
意見

(主な推進組織の名称・農業・農村振興計画推進委員会)
認定農業者数は目標値以上を維持できている。集落営農組織については、経営状況や構成員の個人的事情などにより法人化が進まず、経営強化が図られていない。

【各分野における基本計画事業】			
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート			
担当：農業委員会・農政課 農村振興担当		No. 18 荒廃農地対策を行う。	
2. Do(実行)			
目標	実施内容	具体的な実施内容	期日等
[評価区分]	目標(数値目標)		
①	荒廃農地の解消支援 [定量-2] 荒廃農地面積40ha	<ul style="list-style-type: none"> 荒廃農地の発生・解消状況に関する調査、農業委員会による啓発活動、利用権設定手続き、荒廃農地解消支援金の活用 	通年
②			
③			
<small>※定量-1:実施した=A 実施しなかった=B 計画どおり中止した=C 定量-2:実施数値/目標数値×100= 90~100%⇒A 60~89%⇒B 30~59%⇒C 10~29%⇒D 0~9%⇒E 定性:良かった⇒A 悪かった⇒B 悪かった⇒C 悪かった⇒E</small>			
3. Check(点検・評価)			
目標	達成状況	成果	
[評価区分]		課題	
①	A	荒廃農地解消補助金を活用して、0.2ha解消済。 荒廃農地は減少しているが、遊休農地や荒れ気味の維持管理農地が今後荒廃していく可能性があるため、荒廃防止の啓発活動は続けていく必要がある。	
②			
③			
推進組織等意見	(主な推進組織の名称:農業・農村振興計画推進委員会)		再生作業に係る支援制度と、農業委員会による啓発活動などにより荒廃農地の発生防止・再生が図られた。
4. Action(改善)			
目標	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	
[評価区分]			
①	無	農業の担い手の努力により荒廃農地は減少している。次年度も支援金交付等の支援策を継続していく。	
②			
③			
環境審議会意見	継続して取り組みを進めてもらいたい。		

【各分野における基本計画事業】

環境基本計画 重点取り組み PDCAシート

担当：農政課 生産振興担当

No. 19		県知事認定の「エコファーマー」制度の推進に協力する。			
2. Do(実行)					
目標	実施内容	具体的な内容	実施結果(数値) [結果/目標](%)	具体的な実施内容	期日等
① [評価区分] [定量-1]	環境に配慮した安全・安心な農業講座の開設 年2回	直売所生産者や、多面的機能支払交付金事業取組地区の農業者等を対象に、環境に配慮した農業に関する講座を開催する。	無し 0回	コロナ禍により開催せず。	
②					
③					
<small>※定量-1: 実施した⇒A 実施しない⇒E 計画したが中止した⇒C ※定量-2: 実施数/目標数×100= 90~100%⇒A 60~89%⇒B 30~59%⇒C 10~29%⇒D 0~9%⇒E 定性: 良かった⇒A 良かった⇒C 悪かった⇒E</small>					
3. Check(点検・評価)					
目標	達成状況	成果			
① [評価区分] [定量-1]	C	環境に配慮した農業に関する講座を開催する予定であったが、コロナ禍において開催することができなかった。 コロナ禍において、人を集めて開催することが難しい状況がある。			
②					
③					
4. Action(改善)					
目標	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など			
① [評価区分] [定量-1]	有	環境に負荷をかける農業については、様々な基準があるため、統一した基準が必要である。そのため、エコファーマー制度だけでなく他の基準も含めて考える必要がある。			
②					
③					
環境審議会 意見		制度を利用することでどんなメリットがあるのか分からない。根本的な必要性を説明しなければいけないと思う。制度の分析が必要である。制度の内容をしっかりと把握して、農家に周知してほしい。	推進組織等 意見 (主な推進組織の名称・農業・農村振興計画推進委員会) 特に意見なし		

【各分野における基本計画事業】			
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート			
担当：農政課農村振興担当・学校教育課 教育指導室			
No. 20 学校における食農教育を推進する。			
2. Do(実行)			
目標 [評価区分]	実施内容 目標(数値目標)	具体的な実施内容	実施結果(数値) [結果/目標](%)
① [定量-2]	食農教育(教育ファーム)の推進 小中学校17校(年間)	小中学校での農業体験を実施することで、「食」の根本である農業に関する知識を身につけ、食への感謝の心を育む食農教育を推進する。	17校 100%
②	認定こども園園庭たんぼの実施 認定こども園1園	農業への親しみと食への関心を高めるため、こども園にて米作り体験事業を実施する。	1園 100%
③			
<small>※定量-1:実施した回=A 実施しなかった回=B 計画したが中止した回=C 定量-2:実施回数/目標回数×100= 90~100%⇒A 60~89%⇒B 30~59%⇒C 10~29%⇒D 0~9%⇒E 定性:良かった⇒A 普通⇒B 悪かった⇒C</small>			
3. Check(点検・評価)			
目標 [評価区分]	達成状況	成果 課題	
① [定量-2]	A	全ての小中学校で実施しており、食と農の大切さを知り感謝の心を育む教育とが実践されている。 コロナの影響で、収穫祭や生産者との交流の機会が減少。	
②	A	米作りの楽しさを経験させることができた。 1年目で経験が無いため、スケジュール管理が難しかった。	
③			
4. Action(改善)			
目標 [評価区分]	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	
① [定量-2]	無	農業体験を通じて、子供たちの農や食に対する興味・関心が深まっているため、現在の取り組みを維持していく。	
②	無	米作り体験を通じて、園児たちの農や食に対する興味・関心が深まっているため、現在の取り組みを維持していく。また、ハゲツ(たらい)などによる米作り体験も実施していく。	
③			
環境審議会 意見	子どもが作る体験をすることがさらに重要だと思う。地域の素材を生かしてここでしかない魅力などを伝える努力が必要であると思う。 継続して取り組みを進めてもらいたい。	推進組織等 意見 (主な推進組織の名称:農業・農村振興計画推進委員会) 食育の施策を継続して取り組んでほしい。	

環境基本計画 重点取り組み PDCAシート

担当：耕地林務課 林務担当

No. 21		鳥獣被害防止計画を策定（見直し）し、実施する。	
2. Do(実行)			
目標	実施内容	実施結果(数値) [結果/目標](%)	具体的な実施内容
① [評価値分] [定量-2]	農作物鳥獣被害対策支援 農作物被害金額7,542千円	2,820千円 267%	・補助事業のホームページ等による周知を実施 ・サル被害勉強会の実施 ・サル用GPS装置設置
② [評価値分] [定量-2]	有害鳥獣捕獲推進 大型獣捕獲計画数計170頭	221頭 130%	・新規狩猟者に支援 ・有害獣駆除、個体数調整による捕獲を実施
③			
3. Check(点検・評価)			
目標	達成状況	成果	課題
① [評価値分] [定量-2]	A	サルにGPS装置を装着でき、モニタリングの追払いに活用できた。	サルの行動範囲が広がり、箇所ごとの対応が必要になっている。
② [評価値分] [定量-2]	A	農業被害をもたらす二ホンジカ、ニホンザルの個体数調整を実施した。	大型獣の個体数が増えてきている。
③			
環境審議会 意見		(主な推進組織の名称：有害鳥獣対策協議会) 特に意見なし	
4. Action(改善)			
目標	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	予定時期
① [評価値分] [定量-2]	無	引き続き、農家個人による自己対策を推進するとともに、地域と連携した広域対策としてサルにGPS装置を装着しての追払いを実施していく。	通年
② [評価値分] [定量-2]	無	大型獣の捕獲を引き続き実施しの農林業被害を軽減していく。	通年
③			
<p>①についてサルの行動範囲が広がり、箇所ごとの対応策を検討する必要があるのではないかと。②について二ホンジカ、ニホンザルの具体的な頭数や大型獣の内訳など具体的な内容を提示してほしい。</p>			

【各分野における基本計画事業】			
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート			
担当：耕地林務課 耕地担当			
No. 22		多面的機能支払交付金事業の運用・啓発を図る。	
2. Do (実行)			
目標 [評価区分]	実施内容 目標(数値目標)	具体的な実施内容	予定期
① [定数-2]	広域組織の事務軽減を進める 役員会の開催年2回以上	広域協定運営委員会で事務の効率化を検討し、活動組織の事務軽減につなげる	通年
② [定数-2]	田圃風景の保全のため、取組面積の増加を図る 事業取組面積 3700ha	遊休荒廃農地解消の取り組みや、水路や農道敷の草刈り作業により、安曇野の田圃風景の保全を図る。	5月～11月
③			
<small>※定数-1:実施した⇒A 実施しない⇒E 計画したが中止した⇒C 定数-2:実施数値/目標数値×100= 90～100%⇒A 60～89%⇒B 30～59%⇒C 10～29%⇒D 0～9%⇒E 定性:良かった⇒A ふつうだった⇒C 悪かった⇒E</small>			
3. Check (点検・評価)			
目標 [評価区分]	達成※ 状況	成果 課題	期日等
① [定数-2]	A	広域組織の会長会を1回、各地域役員会を1回開催し、事務軽減の検討を進めることができた。 さらに事務軽減を進める必要がある。	4月～12月
② [定数-2]	A	既存組織の取組面積が拡大した。 事業面積をさらに拡大し、田圃風景の保全を進める必要がある。	5月～12月
③			
4. Action (改善)			
目標 [評価区分]	変更の 必要性	結果の検証と次年度への展望など	環境審議会 意見
① [定数-2]	無	作業資金支払いの口座振替への変更など事務軽減の検討ができたが、更に取り組みを進めなければいけない。	計画にはもっと具体的な内容を記入したほうがいいと思う。農家だけでなく地域の人に協力していただくことも大事である。事業面積も拡大してほしい。
② [定数-2]	無	事業取組面積の増が進んだが、新規取組組織発足に向けて広く市内に普及啓発を推進する必要がある。	もっと発信をすることも考えなければいけないと思うが、継続して取り組みを進めてもらいたい。
③			
推進組織等 意見		(主な推進組織の名称: 農業・農村振興計画推進委員会) 特に意見なし	

【各分野における基本計画事業】

環境基本計画 重点取り組み PDCAシート

担当：都市計画課 公園緑地担当

No. 23 緑の恵みを感じることができる講座を開催する。							
2. Do(実行)							
目標 [評価区分]	実施結果(数値) [結果/目標](%)	具体的な実施内容	予定 時期				
① [定量-2]	5回・ 100%(回数) 100%(人数)	①樹木鑑賞ツアー(15人) ②花壇づくり講座(春6人、秋4人) ③ハンギングバスケット講座(10人) ④寄せ植えコンテスト(30人) 合計5回開催で65人参加	①6、11月 ②10月 ③12月 ④5～11月				
②							
③							
<small>※定量-1:実施した⇒A 実施しない⇒E 計画が中止した⇒C 定量-2:実施数/目標数×100= 90～100%⇒A 60～89%⇒B 30～59%⇒C 10～29%⇒D 0～9%⇒E 定性:良かった⇒A 良かった⇒B 悪かった⇒E</small>							
3. Check(点検・評価)							
目標 [評価区分]	達成※ 状況	成果 課題					
① [定量-2]	A	新規で寄せ植えコンテストを開催し、予想を超える市民の参加があった。また、展示期間には開催を称える意見等関心を寄せられた。 更に市民の緑化意識を高める施策、手法について検討する。					
②							
③							
推進組織等 意見		(主な推進組織の名称：緑の基本計画推進協議会) 市民の緑化意識を更に高めてほしい。					
4. Action(改善)							
目標 [評価区分]	変更の 必要性	結果の検証と次年度への展望など					
① [定量-2]	有	ハンギングバスケット講座や寄せ植えコンテストの開催が年末に集中したため、開催時期を早めることで参加者の増員に繋げたい。					
②							
③							
環境審議会 意見		緑のカーテン事業とリンクした活動も計画したらどうか。景観の意識を高める取組みは重要である。景観のまちづくりの視点が大事である。目標の人数のとらえ方は検証が必要である。 景観のまちづくり事業は、対象者や目的が何かも重要である。					

【各分野における基本計画事業】			
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート			
担当：建築住宅課 建築景観係			
No. 24 景観条例や屋外広告物条例の運用・啓発を行う。			
2. Do (実行)			
目標	実施内容	具体的な内容	期日等
[評価区分]	目標(数値目標)		
① [定量-1]	景観づくり講座の開催 年5回	景観条例、屋外広告物条例に関する講座の開催	1.景観住民協定連絡会総会時に研修会開催 2.景観住民協定向けに先進地への視察研修開催 3.環境フェアでの景観についての周知、広報 1.7/1 2.11/21 3.10/8.9
② [定量-1]	屋外広告物定期パトロール 年24回	屋外広告物の定期パトロールにより、未申請案件の把握と適正な指導を行う。	屋外広告物定期パトロール 4月～12月まで18回 重要路線の定期コースを2名で巡視、写真等記録 毎月2回
③			
※定量-1:実施した回数 A 実施しない回数 E 計画しなかった回数 C 定量-2:実施数/目標数×100= 90～100%⇒A 80～89%⇒B 30～59%⇒C 10～29%⇒D 0～9%⇒E 定性:良かった⇒A ぶつかなかった⇒C 悪かった⇒E			
3. Check (点検・評価)			
目標	達成状況	成果	課題
[評価区分]			
① [定量-1]	B	安曇野のよさの再認識と他市の美観地域を参考にすることで活動の参考を認識できた。	安曇野のよさの再認識と他市の美観地域を参考にすることで活動の参考を認識できた。
② [定量-1]	A	申請未届けの案件など指導し、申請等手続を行った。	イベント等も開催され、景観について周知する機会が増えたが、講座に代わる景観等について周知する機会を検討していかなければならない。
③		看板業者の着手前申請の周知徹底が難しく、方法等検討が必要。	
(主な推進組織の名称:景観審議会)			
推進組織等意見 引き続き取り組みを推進してほしい。			
4. Action (改善)			
目標	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	
[評価区分]			
① [定量-1]	有	講座にとらわれず、安曇野市の景観や屋外広告物について、市民及び事業者等の理解を深めていただくように実施内容について周知する機会を検討していく。	
② [定量-1]	無	実施すれば成果はあるので引き続き実施したい。	
③			
環境審議会意見		景観づくりの講座の中身も精査する必要があると思う。公共の屋外広告物でさびたものを発見しやすくなるので、撤去を進めてもらいたい。景観は観光の収入源にもなり得るのでとても重要である。	

【各分野における基本計画事業】			
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート			
担当：環境課 環境政策担当			
No. 25 地下水涵養に資する手法等の調査・研究・試行を実施する。			
2. Do (実行)			
目標	実施内容	実施結果(数値)	具体的な実施内容
[評価区分]	目標(数値目標)	[結果/目標](%)	
①	地下水講座等の開催 参加者延200人以上	181 90.5%	5/26 豊科小学校4年生(88名)、6/8 豊科東小学校4年生(27名)、堀金小学校5年生(36名)、7/23 JA関係団体(30名)
②	人為的な地下水涵養 120万㎡/年	219.0万㎡ 183%	人為的な地下水涵養施策に向けて他課と協力し取り組んだ。 ・事後灌水事業 作付面積108.4ha 116.8万㎡ ・新規需要米(飼料)作付面積141.6ha(H28年度作付面積100.3ha) 面積(41.3ha)×涵養高(0.0275m/日)×水田灌水日数(90日)
③			
<small>※定量-1:実施した⇒A 実施しなかった⇒E 計画しなかった⇒C 定量-2:実施数値/目標数値×100= 90~100%⇒A 80~89%⇒B 30~59%⇒C 10~29%⇒D 0~9%⇒E 定性:良かった⇒A 良かった⇒C 悪かった⇒E</small>			
3. Check (点検・評価)			
目標	達成状況	成果	課題
[評価区分]			
①	A	令和3年度に引き続き、コロナ禍であったが小学校3校、団体1団体で出前授業・講座を実施することができた。 特に課題なし。	
②	A	年度目標の達成に向けて取り組み達成することが出来た。 灌漑用水利権の目的外使用にならないよう、水田機能維持・地力増進事業と新規需要米等転作推進事業を人為的涵養施策として推進する必要がある。	
③			
推進組織等意見		(主な推進組織の名称:水環境審議会) 地下水の涵養と保全に対して更に推進をもらいたい。	
4. Action (改善)			
目標	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	
[評価区分]			
①	無	引き続き、出前授業・講座を実施していき、市民等に向けた効果的な学習の場を広げられるよう検討していく。また、今年度は、事業者と連携し出前授業が実施できたので続けられるよう努力していきたい。	
②	有	引き続き、他の新たな人為的地下水涵養施策の検討を進める。	
③			
環境審議会意見		人為的な地下水涵養について他行政や他事業と連携し、地下水の涵養量増加に努めていきたい。	

【各分野における基本計画事業】			
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート			
担当：環境課 環境政策担当			
No. 26 雨水貯留施設の設置に対する補助を行う。			
2. Do (実行)			
目標 [評価区分]	実施内容 目標(数値目標)	具体的な実施内容	実施結果(数値) 結果/目標(%)
① [定量-2]	雨水貯留槽施設設置補助 12基/年	水の節水を目的に、市民向けへ施設設置補助の周知及び設置数の増を進める。	12基 100%
②			
③			
<small>※定量-1:実施した=A 実施しない=E 計画どが中止した=C 定量-2:実施数/目標数×100= 90~100%⇒A 60~89%⇒B 30~59%⇒C 10~29%⇒D 0~9%⇒E 定性:良かった⇒A 悪かった⇒C 悪かった⇒E</small>			
3. Check (点検・評価)			
目標 [評価区分]	達成※ 状況	成果 課題	期日等
① [定量-2]	A	年度目標基数を達成することができた。 その他の新しい周知方法を検討しPRしていく。	通年
②			
③			
推進組織等 意見		(主な推進組織の名称:水環境審議会) 特に意見なし	
4. Action (改善)			
目標 [評価区分]	変更の 必要性	結果の検証と次年度への展望など	予定 時期
① [定量-2]	無	新しい周知方法を検討しながら、多くの申請希望者へ周知していきたい。	通年
②			
③			
環境審議会 意見		雨水貯留施設は現状12基であり、予算の関係もあると思うが、基数の増 加を検討していただきたい。	

【各分野における基本計画事業】
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート

担当：政策経営課 企画担当

No. 27		デマンド交通「あづみん」、「定時定路線」の運行を行う。	
2. Do (実行)			
目標 [評価区分]	実施内容 目標(数値目標)	具体的な実施内容	期日等
① [定量-2]	あづみん(デマンド交通、定時定路線)の運行 デマンド交通利用者88,000人/年	・あづみん(デマンド交通、定時定路線)の運行 ・デマンド交通利用者は3月末時点の人数	通年
② [定量-1]	利便性向上に向けた実証運行・検証 ・協議会部会での会議年2回	・休日運行の社会実装として11月～1月までの3カ月間、土曜日運行を実施。	通年
③			
<small>※定量-1:実績値/A 実施しない/E 計画途中中止した=C 定量-2:実績数値/目標数値×100= 90~100%=A 80~89%=B 30~59%=C 10~29%=D 0~9%=E 定性:良かった=A 悪かった=C 悪かった=E</small>			
3. Check (点検・評価)			
目標 [評価区分]	達成状況	成果課題	
① [定量-2]	A	コロナの影響を考慮しても、安定した利用をいただいている 説明会開催などから、予約の約20%超をアプリ予約となっており、今後も、更なる利用促進に向けた啓発が必要である。	
② [定量-1]	A	デマンドの課題を整理し、休日運行の実証運行が実施出来た。 限られた予算も加味したなか、実装の検討が必要である。	
③			
環境審議会 意見		推進組織等 意見	(主な推進組織の名称：地域公共交通協議会) 特に意見なし
4. Action (改善)			
目標 [評価区分]	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	
① [定量-2]	無	AI型予約システム導入によるスマートフォンアプリからの予約を可能とした。また、乗降時間をより明確にお知らせ出来る「時間の見える化」を実施した。	
② [定量-1]	無	・土曜日運行でのニーズ検証を実施すると共に、次年度では時間延長(7時～8時、17時～20時)の実証運行を実施予定。	
③			
環境審議会 意見		地域公共交通の役割を確認しさらなる展開を進めてください。	

5-4 環境指標達成状況（基本計画P62-63）

環境基本計画で定めた環境指標の達成状況を下表に示します。

個別目標	環境指標	基準年 (2016年度)	策定年 (2017年度)	第1年次 (2018年度)	第2年次 (2019年度)	第3年次 (2020年度)	第4年次 (2021年度)	第5年次 (2022年度)	目標 (2022年度)
1 山岳地をまもる	山岳に関するイベントの参加者数 (登山マナーの普及啓発を含む)	3,800人/年 84.4%	4,000人/年 88.9%	3,000人/年 66.7%	3,500人/年 77.8%	0人/年 0.0%	0人/年 0.0%	0人/年 0.0%	4,500人/年 100.0%
	安曇野材の年間利用実績	150m ³ /年 68.2%	154m ³ /年 70.0%	113m ³ /年 51.4%	160m ³ /年 72.7%				220m ³ /年 100.0%
2 里山をまもる	里山学校の年間受講者数(延べ)	105人/年 70.0%	283人/年 188.7%	352人/年 234.7%	101人/年 67.3%	33人/年 22.0%	43人/年 28.7%	66人/年 44.0%	150人/年 100.0%
	認定農業者数	267経営体 98.9%	273経営体 101.1%	281経営体 104.1%	283経営体 104.6%	273経営体 101.1%	288経営体 106.7%	293経営体 108.5%	270経営体 100.0%
3 里地をまもる	集落営農組織数	27組織 96.4%	27組織 96.4%	27組織 96.4%	27組織 96.4%	27組織 96.4%	27組織 96.4%	27組織 96.4%	28組織 100.0%
	多面的機能支援交付金事業活動組織数	51組織 83.6%	54組織 88.5%	57組織 93.4%	56組織 91.8%	57組織 93.4%	57組織 93.4%	57組織 93.4%	61組織注1) 100.0%
5 生きものをまもる	「生きもの調査」の実施			1回/5年 100.0%					1回/5年 100.0%
	特定外来種駆除活動の参加者数	7,790人/年 97.4%	7,228人/年 90.4%	6,923人/年 86.5%	7,194人/年 89.9%	3,054人/年 38.2%	4,607人/年 57.6%	6,007人/年 75.1%	8,000人/年 100.0%
6 身近な自然とふれあう	1人当たり都市公園・その他公園の面積(国営・県営公園を除く)	7.9m ² /人 85.9%	7.9m ² /人 85.9%	7.9m ² /人 85.9%	8.2m ² /人 89.1%	8.2m ² /人 89.1%	8.2m ² /人 89.1%	8.7m ² /人 94.6%	9.2m ² /人注2) 100.0%
	緑の恵みを感じることができている講座の開催	2回/年 50.0%	4回/年 100.0%	4回/年 100.0%	4回/年 100.0%	3回/年 75.0%	5回/年 125.0%	5回/年 125.0%	4回/年 100.0%
7 景観や歴史・文化を大切に	景観づくり講座開催回数	0回/年 0.0%	1回/年 20.0%	1回/年 20.0%	0回/年 0.0%	2回/年 40.0%	2回/年 40.0%	2回/年 40.0%	5回/年 100.0%
	水道普及率	99.0% 99.0%	99.0% 99.0%	99.1% 99.1%	99.8% 99.8%	99.2% 99.2%	98.7% 98.7%	98.7% 98.7%	100.0%注2) 100.0%
8 豊富できれいな水の環境をまもる	水洗化率	81.9% 92.1%	84.0% 94.5%	84.6% 95.2%	85.3% 96.0%	86.3% 97.1%	86.9% 97.8%	87.7% 98.7%	88.9% 100.0%
	人為的な地下水涵養農地面積(新規需要米等転作推進事業)	100.2ha 66.8%	112.8ha 75.2%	113.1ha 75.4%	116.0ha 77.3%	107.7ha 71.8%	132.2ha 88.1%	141.6ha 94.4%	150.0ha 100.0%
9 きれいな空気と静かな環境をまもる	窒素酸化物・ダイオキシン類濃度測定値 ※R2年度でダイオキシン類調査業務廃止	基準値以下注3)	基準値以下	基準値以下	基準値以下	基準値以下	基準値以下	基準値以下	基準値以下注3)
	自動車交通騒音測定値基準値超過地点	1地点	1地点	1地点	1地点	1地点	1地点	1地点	1地点
10 公害・化学物質などの問題をなくす	苦情件数 ①空家苦情、②騒音等苦情、③空地苦情	265件/年 120.5%	254件/年 115.5%	179件/年 81.4%	143件/年 65.0%	97件/年 44.1%	206件/年 93.6%	231件/年 105.0%	220件/年 100.0%
	市民1日1人当たりのごみ排出量	787g/人・年 106.9%	785g/人・年 106.7%	796g/人・年 108.2%	790g/人・年 107.3%	801g/人・年 108.8%	813g/人・年 111.5%	821g/人・年 115.5%	736g/人・年 100.0%
11 ごみを少なく	資源物排出量	3,354t/年 106.7%	2,995t/年 95.3%	2,793t/年 88.9%	2,648t/年 84.3%	2,585t/年 82.3%	2,646t/年 81.5%	2,371t/年 75.5%	3,142t/年 100.0%
	事業系可燃ごみ排出量	10,859t/年 102.1%	11,088t/年 104.2%	11,162t/年 104.9%	11,549t/年 108.6%	11,427t/年 107.4%	11,413t/年 107.3%	11,743t/年 110.4%	10,639t/年 100.0%
12 地球温暖化に対応	安曇野市域の温室効果ガス排出量注4)	71.3万t-CO2/年 99.7%	71.5万t-CO2/年 100.0%	70.8万t-CO2/年 99.0%	65.8万t-CO2/年 92.0%	2023年に推計			71.5万t-CO2/年注5) 100.0%
	2015(平成27)年度基準年に対する市の事務事業における温室効果ガス削減率	-14.69% 299.0%	-9.44% 192.7%	-15.64% 319.2%	-18.06% 368.6%	-21.63% 441.4%	-21.69% 442.7%	2023年に推計	-4.90%注5) 100.0%
13 環境情報を充実させる	「あづみん」(デマンド交通)の利用者数	85,365人/年 97.0%	85,123人/年 96.7%	86,273人/年 98.0%	86,681人/年 98.5%	75,970人/年 86.3%	78,975人/年 89.7%	80,554人/年 91.5%	88,000人/年 100.0%
	安曇野エコプラン.netアクセス数	- -	1,030件/年 29.4%	2,080件/年 59.4%	3,772件/年 107.8%	2,297件/年 65.6%	3,406件/年 97.3%	5,370件/年 153.4%	3,500件/年 100.0%
14 環境について学ぶ・体験する	安曇野市環境市民ネットワークによる環境学習プログラムの提供数	24件/年 80.0%	24件/年 80.0%	24件/年 80.0%	24件/年 80.0%	23件/年 76.7%	21件/年 70.0%	22件/年 73.3%	30件/年 100.0%
	安曇野環境フェア来場者数	1,900人/年 95.0%	1,700人/年 85.0%	1,800人/年 90.0%	台風により中止 #VALUE!	台風により中止 #VALUE!	台風により中止 #VALUE!	1,400人/年 70.0%	2,000人/年 100.0%
15 環境保全活動を活発にする	信州型自然保育注6)を受ける児童の割合	52.0%/年 96.3%	53.9%/年 99.8%	54.4%/年 100.7%	57.9%/年 107.2%	58.9%/年 109.1%	58.5%/年 108.3%	61.1%/年 113.1%	54.0%/年 100.0%
	行動計画に基づく環境学習の開催数	9回/年 90.0%	10回/年 100.0%	10回/年 100.0%	12回/年 120.0%	4回/年 40.0%	4回/年 40.0%	5回/年 50.0%	10回/年 100.0%
15 環境保全活動を活発にする	環境美化活動団体数(累計)	217団体/年 78.3%	215団体/年 77.6%	307団体/年 110.8%	346団体/年 124.9%	358団体/年 129.2%	441団体/年 114.8%	397団体/年 143.3%	277団体/年 100.0%
	環境美化活動参加者数(累計)	34,187人/年 95.0%	31,894人/年 88.6%	42,538人/年 118.2%	42,422人/年 117.8%	35,008人/年 97.2%	42,745人/年 102.7%	37,793人/年 105.0%	36,000人/年 100.0%

注1) 個別計画の2021年度目標値
 注2) 個別計画の2026年度目標値
 注3) 窒素酸化物濃度基準値: 0.04~0.06ppm範囲内又はそれ以下(日平均値)
 ダイオキシン類濃度基準値: 0.6pg-TEQ/m³以下(年平均値)
 注4) 都道府県別エネルギー消費統計の推計方法変更等に伴い、過年度分に通じて修正。今後も推計方法の変更により、基準・目標年度の値も含め修正する可能性がある。
 注5) 個別目標の2020年度目標値
 注6) 「信州型自然保育」の詳細は、第2次安曇野市環境基本計画97ページのコラム内を参照。

5-5 参加と協働

基本計画に定めた施策のうち、個別目標13から15にかかる施策について、各担当が取り組みを進めました。ここでは、環境情報の充実や環境学習の推進、環境保全活動の活発のために環境課が行った取り組みのうち、参加と協働という視点で特徴的だった事業についてのみ記述します。

(1) 安曇野環境フェア2022

【開催概要】

- | | |
|----------|--|
| ア) コンセプト | 豊かで美しい自然環境を守り、快適な生活環境を次代につなぐ
まちをつくろう！ |
| イ) テーマ | 知ろう 守ろう あづみ野の水 |
| ウ) 主催 | 安曇野市、安曇野環境フェア 2022 実行委員会 |
| エ) 共催 | 安曇野環境市民ネットワーク |
| オ) 日時 | 令和4年10月8日（土）9時30分～16時
9日（日）9時～16時 |
| カ) 会場 | 安曇野市穂高会館（安曇野市穂高 5047） |
| キ) 来場者数 | 1日目：約900人 2日目：500人 計1,400人 |

6 その他

6-1 安曇野市環境基本計画庁内調整会議

環境基本計画庁内調整会議において、基本計画及び行動計画の進捗状況の確認と課題の検討を行うとともに、各種施策の調整を行いました。また、実施計画書及び年次報告書の原案や、これまでの取り組みの点検・評価の結果、関連計画の改定を踏まえて行動計画の改定案を作成し、審議会への報告を行いました。

6-2 安曇野市生物多様性アドバイザー

安曇野市の豊かな自然環境や動植物種の多様性を将来にわたり維持していくことを目的に、安曇野市版レッドデータブック等で著された希少生物の保護及び重要な自然環境の保全等に関し、専門家の意見を聴くため、連絡会議を6回開催したほか、必要に応じて意見照会を行いました。

6-3 安曇野環境市民ネットワーク

6-3-1 概要と事業内容

安曇野環境市民ネットワーク（以下「ネットワーク」という）は、市内または各地域において環境保全のための活動を行っている団体や個人が集まり、協働や連絡・調整を行うことによって、より良い安曇野の環境を創出することを目的として平成21年9月に発足しました。

事業内容は、大きく分けて①コミュニケーション、②環境学習の企画と実施、③環境基本計画および行動計画の実施、④普及啓発の4つです。

令和4年度の組織体制及び事業内容は次のとおりです。

(1) 組織体制

- (1) 会員構成 : 25団体、3個人
- (2) 役員構成 : 運営委員 14人（座長 1人、副座長 1人、会計 1人、監事 1人含む）
- (3) 事務局 : 安曇野市 市民生活部 環境課

(2) 事業内容

(1) 主催事業

- (1) -①運営委員会、総会、環境講座「環カフェ」の開催

実施日	会議等名称	内 容
5月28日	第1回 「環カフェ」	<ul style="list-style-type: none"> ・「緑のカーテン講座」 <ul style="list-style-type: none"> ①地球温暖化、省エネ対策等について ②緑のカーテンの作り方（ゴーヤ編） ・講師等：①環境課職員（地球温暖化防止対策 担当） ②NPO 法人 あづみ野風土舎の皆様 ・参加者：41人
6月14日	第2回 「環カフェ」	<ul style="list-style-type: none"> ・特定外来生物「ウシガエル」の観察・駆除 ・講師等：長野県環境保全研究所 主任研究員 北野聡 氏 ・参加者：5人
1月26日	運営委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度総会について ※新型コロナウイルス感染症対策のため書面開催
3月9日	第3回 「環カフェ」	<ul style="list-style-type: none"> ・「身近な特定外来生物、外来生物」 ・情報提供者：環境課職員（自然保護担当）
3月9日	総会	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度事業報告及び収支決算 ・令和5年度事業計画（案）及び収支予算（案）

(1) -②登録団体間の情報交換及び情報発信事業

登録団体の開催するイベントや環境関連の様々な情報について、メーリングリストやWeb ページ「安曇野エコプラン.net」上での情報発信などを行いました。

また、主催・共催事業の開催にあたっては広報誌で周知したほか、必要に応じてチラシを作成し、公共施設及び市内小・中学校等に配布しました。

(2) 共催事業

(2) -①安曇野環境フェア 2022

4年ぶりの開催になり、ネットワーク登録団体をはじめ、市内外で環境活動を行っている団体等との情報交換が図られました。また、市内の環境に関するさまざまな情報・現状を来場者の方々に知ってもらうことができました。

【開催概要】

- ア) コンセプト 豊かで美しい自然環境を守り、快適な生活環境を次代につなぐ
まちをつくろう！
- イ) テーマ 知ろう 守ろう あづみ野の水
- ウ) 主催 安曇野市、安曇野環境フェア 2022 実行委員会
- エ) 共催 安曇野環境市民ネットワーク
- オ) 日時 令和4年10月8日（土）9時30分～16時
9日（日）9時～16時
- カ) 会場 安曇野市穂高会館（安曇野市穂高 5047）
- キ) 来場者数 1日目：約900人 2日目：500人 計1,400人

(3) 後援事業

(3) -①ネットワーク登録団体等の関連イベントの後援及び情報発信

ネットワーク登録団体の関連イベントについて後援を行ったほか、メーリングリスト、市サブサイトのWebページ「安曇野エコプラン.net」上での情報発信を行いました。

(4) 協力事業

(4) -①学校や市民団体等からの講師依頼対応（環境学習資源の有効活用に係わるコーディネート）

アルプスあづみの公園管理センター主催の「さとやま楽校」の一部講座について、ネットワーク加入団体が講師を務め、地域の学生や住民への環境学習推進に御尽力いただきました。

令和4年度 さとやま楽校

実施日	内容	主催/講師等
4月24日 5月15日、27日 6月4日、25日 7月3日 8月7日 9月4日、19日 10月2日、 15日、23日	やまこの教室 「飼育林準備」ほか8回 参加者：延べ261人	国営アルプスあづみの公園/ やまこの学校（校長 古田 春江 氏）
5月22日 6月18日、25日 7月2日、31日 9月10日、24日 11月3日	田んぼの教室 「田植え」等計8回 参加者：延べ125人	国営アルプスあづみの公園/ みのむしの会（代表 原 惇志 氏、他会の皆様） 生活協同組合 コープながの 岩原の自然と文化を守り育てる会
5月7日 6月5日 7月9日 8月6日 9月3日	里山いきもの教室 「初夏の生き物観察」等計5回 参加者：延べ63人	国営アルプスあづみの公園/ 三郷昆虫クラブ（代表 那須野 雅好 氏） 田淵行男記念館こども自然観察教室 「むしの会」 信州生物多様性ネットきずな
1月25日 2月8日、22日 3月8日、22日	案内人の教室 「ガイダンス」等計5回 参加者：6人	国営アルプスあづみの公園/ NPO 法人 安曇野ふるさとづくり応援団（代表 宗像 章 氏、事務局長 宮崎 崇徳 氏、高松 伸幸 氏[ココブラ信州実行委員会]） 安曇野案内人倶楽部

※明科中学校の総合的な学習の時間「ホームタウン明科」は、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和3年度末に閉講となりました。

(4) -②特定外来生物 オオカワヂシャ駆除（都市計画課主催の憩いの池清掃に協力）

【概要】

ア) 内容	オオカワヂシャの駆除（抜取り）
イ) 主催	安曇野市 都市計画課
ウ) 協力	安曇野環境市民ネットワーク
エ) 日時	令和4年9月22日（木） 午前9時～午前1時30分
オ) 場所	安曇野わさび田湧水群公園（憩いの池）
カ) 参加者数	5人（特定外来生物リポーターなど含む）

(4) -③安曇野市環境審議会、環境基本計画庁内調整会議との連携・協力

安曇野市環境基本計画・環境行動計画との連携、協力として、安曇野市版環境家計簿、特定外来生物リポーター事業へ参加しました。

(5) 参加団体による活動

ネットワーク登録団体間や環境審議会との情報共有を目的として活動状況アンケートを実施したところ、全25団体のうち14団体より回答がありました。

なお、アンケート結果の詳細を参考資料として次ページ以降に示します。

7 参考資料

令和4年度 安曇野環境市民ネットワーク 活動アンケート結果

○報告を受けた団体一覧

活動分野	団体名
生活	安曇野市消費者の会
地球温暖化	安曇野地球温暖化協議会
景観	安曇野百選プロジェクト
生活、環境	安曇野市不用食器リサイクル実行委員会
環境	アルプスあづみの公園管理センター
景観	アルプス花街道実行委員会
景観	潮沢ロマンの会
環境	NPO 法人 あづみ野風土舎
景観、農林	NPO 法人 安曇野ふるさとづくり応援団
自然	烏川溪谷緑地 環境管理事務所
自然、生活	生活協同組合コープながの
自然	田淵行男記念館 こども自然観察教室「むしの会」
自然、景観	特定非営利活動法人 森倶楽部 21
自然	野生生物資料情報室

(50 音順)

■令和4年度 安曇野環境市民ネットワーク登録団体 年間活動状況

アンケート回答がありました団体の年間活動記録について以下に掲載します。

団体名	安曇野市消費者の会
記入者名	会長 平田 米子

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
9月22日	オオカワヂシャ駆除	憩いの池	1人
10月8日 9日	安曇野環境フェア	穂高会館	15人

団体名	安曇野地球温暖化協議会
記入者名	樋口 嘉一

講演・講座・イベント等

日付	名称・活動等	会場	参加人数
5月31日 7月1日	長野県地球温暖化防止活動推進員有志と事務局にて「信州版夏の省エネガイドブック2022年度改訂版」を作成、長野県地球温暖化防止活動推進センターHPに掲載	WEB会議	13人 事務局
6月25日	安曇野市天然記念物「安曇野市のオオルリシジミ」指定記念シンポジウムに出席	豊科公民館	—
10月8日 9日	安曇野環境フェア 2022 に出展と環境活動発表会で講演	穂高会館	1,400人
10月21日	安曇野市市民活動フェスタ 2022 に出展とステージ発表	穂高交流学習センター「みらい」	—

交流・会議・活動等

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
6月23日 8月4日 11月10日 1月13日	安曇野市総合計画審議会に出席	安曇野市本庁舎	21人 事務局
4月22日 6月3日 7月8日	安曇野市環境審議会に出席	安曇野市本庁舎	15人 事務局

9月29日			
10月21日			
11月18日			
1月20日			
3月17日			

研修・研鑽等

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
7月14日 1月16日 3月	長野県地球温暖化防止活動推進員講師養成研修会「小中学生向け講座づくり」に出席	くぬぎの杜小ホール、WEB	15人 事務局
7月29日	長野県地球温暖化防止活動推進員研修会「自然との共生－地球に学び森と遊ぼう－」に出席	ギャラリー82	－
9月7日	「再エネ100宣言 Re Actionの活動紹介」「地域での脱炭素活動・経営の事例紹介」／第1回JCCCAセミナーに出席	WEB会議	－
9月22日	脱炭素経営セミナー・事業者の脱炭素経営入門／第2回JCCCAセミナーに出席	WEB会議	－

特に来場者からの反響が大きかった活動とその理由

イベント・講座名：安曇野市総合計画審議会、安曇野市環境審議会に出席

理由：安曇野市総合計画審議会では「第2次安曇野市総合計画・後期基本計画」の策定と、環境審議会では「第2次安曇野市環境基本計画(2023版)」の策定に参画し、自然環境保全と地球温暖化防止の観点から寄与したと考える。

団体名	安曇野百選プロジェクト
記入者名	宮崎 崇徳

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
11月26日 ～12月26日	ビューポイントフォトコンテスト2022	サイト内	－
3月	穂高神社探求探検ウォークラリー	穂高神社	30人

特に来場者からの反響が大きかった活動とその理由

イベント・講座名：ビューポイントフォトコンテスト2022

理由：たくさんの応募があった。

団体名	安曇野市不用食器リサイクル実行委員会
記入者名	桜井 洋子

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
10月8日 9日	安曇野環境フェア 2022	穂高会館	—

特に来場者からの反響が大きかった活動とその理由

イベント・講座名：不用食器もったいない市

理由：1.要らなくなった食器がそれを必要とする人に無償で回していける(リユース)
1.家族で困っていた食器の処理ができ助かる(リデュース)
1.最終的には美濃焼きの食器に再生、蘇える(リサイクル)
1.目的である埋め立てゴミの削減に大きく貢献していると自負している
SDGsの17番目のロゴマーク(パートナーシップで目標を達成しよう)の
項目に向かって、今後もこのしくみを地域の仕組みとしていきたい。
(ここでのパートナーとは市民と行政を指す)

団体名	アルプスあづみの公園管理センター
記入者名	市民協働係 須之部 大

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
4月24日 5月15日 27日 6月4日 25日 7月3日 8月7日 9月4日 19日 10月2日 15日 23日	さとやま楽校 やまこの教室「飼育林準備」ほか 計8回 講師:やまこの学校(校長 古田 春江 氏)	国営アルプス あづみの公園	延べ 261人
5月22日 6月18日 25日	さとやま楽校 田んぼの教室「田植え」等 計8回 講師:みのむしの会(代表 原 惇志 氏、他会の	国営アルプス あづみの公園	延べ 125人

7月2日 31日 9月10日 10月1日 11月3日	皆さん)/生活協同組合 コープながの/岩原の 自然と文化を守り育てる会		
5月7日 6月5日 7月9日 8月6日 9月3日	さとやま楽校 里山いきもの教室「初夏の生き物観察」等 計5回 講師:三郷昆虫クラブ(代表 那須野 雅好 氏)/ 田淵行男記念館むしの会/信州生物多様性ネッ トきずな	国営アルプス あづみの公園 ネットきずな	延べ 63人
1月25日 2月8日 22日 3月8日 22日	さとやま楽校 案内人の教室「ガイドンス」等計5回 講師:NPO 法人安曇野ふるさとづくり応援団(代 表 宗像 章 氏、事務局長 宮崎 崇徳 氏、高 松 伸幸 氏[ココブラ信州実行委員会])/安曇野 案内人倶楽部	国営アルプス あづみの公園	6人
9月11日	里山文化ゾーンイベント 夜の鳴く虫観察会 講師:丸山 隆 氏	国営アルプス あづみの公園	20人
9月18日	里山文化ゾーンイベント 馬耕実演 講師:横山 晴樹 氏(うまや七福)	国営アルプス あづみの公園	32人
9月11日	里山文化ゾーンイベント 魅惑のゲンゴロウ探し 講師:斉藤 雄太 氏(安曇野市 文化課)	国営アルプス あづみの公園	16人
9月23日 (中止)	里山文化ゾーンイベント 里山さるかに合戦参加者 講師:市川 哲生 氏(BO-GA) <u>*台風15号の影響により中止</u>	国営アルプス あづみの公園	-
10月2日	里山文化ゾーンイベント オオルリシジミの食草クララ植栽イベント 講師:安曇野オオルリシジミ保護対策会議	国営アルプス あづみの公園	11人
3月12日	里山文化ゾーンイベント オオルリシジミサンクチャリの野焼き見学会 講師:安曇野オオルリシジミ保護対策会議	国営アルプス あづみの公園	

団体名	アルプス花街道実行委員会
記入者名	(事務局補佐)安曇野市 地域づくり課 まちづくり推進担当 土橋 あずみ

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
5月21日	アルプス花街道 苗の配付・定植	市内9か所他	1,267人
8月10日	アルプス花街道活動箇所の巡視	同上	8人

団体名	潮沢ロマンの会
記入者名	宝 喜吉

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
7月27日	令和4年度 第2回 明科三校 研修会 廃線歩き 潮沢の歴史講座	明科北小学校 体育館	40人
10月8日 9日	安曇野環境フェア2022	穂高会館	5人
10月10日	潮沢御嶽行者の里 柏尾散策 潮沢区	柏尾集落	35人
10月21日	明科南小学校・明科北小学校 一学年交流遠足	廃線敷	45人
10月30日	ハロウィン 旧国鉄篠ノ井線ウォーク 主催:JR 東日本長野支社、後援:安曇野市	-	30人
10月31日	市朗人大学 社会福祉協議会 明科北小学校一年生 一緒に地域の旧跡巡り	-	45人
令和5年 3月21日	柏尾風神祭り 協力:潮沢ロマンの会	柏尾大日堂	50人

特に来場者からの反響が大きかった活動とその理由

イベント・講座名 : ハロウィン 旧国鉄篠ノ井線ウォーク

理由 : -

団体名	NPO 法人 あづみ野風土舎
記入者名	磯野 康子

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
4月29日	緑のカーテン広げよう 講座	安曇野市役所	100人
5月7日	緑のカーテン広げよう 講座	池田町 交流センター かえで	30人
5月23日 ～11月19日	緑のカーテン作り 指導・支援 計11回	堀金中学校	40人
5月28日	環境カフェ「ゴーヤの育て方講座」 講師	安曇野市役所	2人
7月19日	堀金お宝発見講座 「ゴーヤの育て方」 講師	堀金公民館	4人
4月14日 ～11月25日	三角地植栽・除草 計8回	穂高柏矢町 交差点付近	40人
10月8日 9日	安曇野環境フェア2022 出展	穂高会館	8人
10月23日	市民活動フェスタ 出展	穂高交流 学習センター みらい	3人

特に来場者からの反響が大きかった活動とその理由

イベント・講座名 : 緑のカーテン広げよう講座

理 由 : 新聞掲載の講座開催案内が、写真入りで分かりやすかった。
育てることに関心を持っている人が多い。

団体名	NPO 法人安曇野ふるさとづくり応援団
記入者名	宮崎 崇徳

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
4月17日	第29回ふるさとウォッチング	豊科真々部	35人
5月22日	ふるさと探究～柏原公民館	穂高柏原	17人

6月25日	ふるさと探究～梓川公民館	松本市梓川	11人
11月3日	ふるさと探究～三角島	三角島	31人
10月2日	第30回ふるさとウォッチング	堀金中堀	21人
6月10日 ～11月15日	ふるさと探究～豊科北小学校	豊科駅周辺	40人
9月10日	ふるさと探究～武蔵野第六中学校1年生	豊科重柳	81人
8月24日 ～11月14日	ふるさと探究～豊科北中学校3年生	豊科駅周辺	26人
令和5年 1月25日 ～3月22日	さとやま楽校案内人の教室	国営公園他	10人

特に来場者からの反響が大きかった活動とその理由

イベント・講座名： ふるさと探究～豊科北中学校3年生

理由：空家をテーマにした全6回の地域探求講座で、班毎のフィールドワークでまちの魅力を掘り起こし、まちづくり提案書としてまとめ発表した。

団体名	烏川溪谷緑地 環境管理事務所
記入者名	須之部 大

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
4月18日	市民会議主催 カタクリ観察会	烏川溪谷緑地 森林エリア	20人
4月23日 5月1日	第146回からすの学校 オオルリ観察会	烏川溪谷緑地	41人
5月3日	安曇野の水の歴史ガイド・春 烏川溪谷緑地⇔あづみの公園	烏川溪谷緑地 国営アルプスあづみの公園	10人
5月14日	第147回からすの学校 樹木医が案内する樹木観察	烏川溪谷緑地 森林エリア	18人
5月15日	市民会議主催 植物と親しくなる観察会 ～ネイチャージャーナル はじめの一步	烏川溪谷緑地 水辺エリア	14人

	～		
6月11日	第148回からすの学校 植物写真教室ワークショップ プラス 映像詩	烏川溪谷緑地 水辺エリア	6人
7月2日	市民会議主催 昆虫観察会～昆虫の目 から見た棲みよい森づくり～	烏川溪谷緑地 水辺エリア	21人
7月24日	第149回からすの学校 ツキノワグマ学習会 ～クマのいる場所・ヒトの居場所～	烏川溪谷緑地 森林エリア	13人
7月29日	長野県主催 安曇野市共催 令和4年度 第1回 信州やまほいく研修交流会	オンライン配信	63人
9月4日	第150回からすの学校 「動物のおはなしとおんがく」	国営アルプスあづみの公 園多目的ホール	72人
9月11日	第151回からすの学校 コウモリのふしぎ学習会	烏川溪谷緑地 水辺エリア	12人
10月2日	安曇野の水の歴史ガイド・秋 烏川溪谷緑地⇄あづみの公園	烏川溪谷緑地 国営アルプスあづみの公 園	14人
10月15日	第152回からすの学校 ムササビの棲む森学習会	烏川溪谷緑地 水辺エリア	12人
10月28日	安曇野市こども園課・保育協会主催 保育士のための自然体験講習会	烏川溪谷緑地 森林エリア	16人
10月30日	第153回からすの学校 斧研沢はタイムカプセル part2	烏川溪谷緑地 森林エリア	10人
11月18日	安曇野市こども園課主催 保育士のための環境教育講習会	烏川溪谷緑地 森林エリア	13人
12月6日	市民会議主催 生物と出逢う工夫のビオ トープ	烏川溪谷緑地 水辺エリア	17人
12月17日	コケテラリウム教室	烏川溪谷緑地 水辺エリア	15人
1月21日	市民会議主催 新月伐採 斧入れの儀	烏川溪谷緑地 森林エリア	37人
2月8日	第156回からすの学校 アニマル・トラッキング学習会	烏川溪谷緑地 水辺エリア	
2月11日	スノーシュー体験	烏川溪谷緑地 森林エリア	
2月12日	市民会議主催 カタクリ群落の生物調査	烏川溪谷緑地	

	報告会	水辺エリア	
3月25日	シカの角アクセサリ作り	烏川溪谷緑地 水辺エリア	
年間	近隣の小中学校への環境学習・水生生物観察のプログラム提供	烏川溪谷緑地 水辺エリア	
年間	宿泊施設タイアップ 烏川緑地自然ガイド	烏川溪谷緑地 森林エリア	35人

特に来場者からの反響が大きかった活動とその理由

イベント・講座名 : 第150回からすの学校「動物のおはなしとおんがく」

理由 : 講座形式のからすの学校と趣向を変えてコンサートを交えたところ、参加者層が広がった。

団体名	生活協同組合コープながの
記入者名	召田 洋一

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
5月22日	国際協力田協力田田植え	JAあづみ圃場	32人
7月23日	川の生きもの調査	せせらぎ	57人
10月8日 9日	安曇野市環境フェア 2022	穂高会館	展示のみ
10月22日	たき火体験	長峰山	50人
12月4日	国際協力田協力田米発送式&正月飾り作り	JAあづみ 営農センター	22人

特に来場者からの反響が大きかった活動とその理由

イベント・講座名 : 川の生きもの調査

理由 : 普段の生活では入ることの少ない川での活動だった事と、人数が多かったことから、生きものに詳しい講師の方を数人お願いし、丁寧な説明をして頂いた事によります。また、子ども用のライフジャケットを安曇野市よりお借りし、安全に遂行することが出来ました。

団体名	田淵行男記念館こども自然観察教室「むしの会」
記入者名	中田 信好

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
4月16日	昆虫観察と田淵行男記念館の見学	記念館周辺	29人
5月22日	安曇野市天然記念物オオルリシジミの観察	国営アルプス あづみの公園	38人
6月11日	初夏の昆虫観察	県営 烏川溪谷緑地	29人
7月9日	夏の昆虫観察	松本市 アルプス公園	36人
8月6日	夜の昆虫観察(ライトトラップ)	県営 烏川溪谷緑地	34人
9月11日	初秋の昆虫観察	黒沢洞合 自然公園	28人
10月8日	秋の昆虫観察	県営 烏川溪谷緑地	28人
11月12日	晩秋の昆虫観察	松本市 アルプス公園	21人
12月3日	冬鳥と越冬昆虫の観察および記念館の見学	記念館周辺	33人
2月19日	自然講演会と修了式	三郷公民館	-

特に来場者からの反響が大きかった活動とその理由

イベント・講座名 : 夜の昆虫観察

理由 : 昼間の昆虫観察とは違い、ライトを灯して夜行性の昆虫を誘引する観察法は普段体験できないので、子供たちの興味を引いたと思う。

団体名	特定非営利活動法人 森倶楽部21
記入者名	森 芳昭

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
5月22日	自然観察・野草摘み・天ぶら会	長峰山	20人

6月19日	明科あやめ祭り展示参加	明科 あやめ公園	3人
6月26日	長野県勤労者山岳連盟自然保護委員会の企画による「生物多様性を考える」講師	長峰山	7人
10月5日	県林業総合センター主催森林・林業セミナー「里山総合利用」における活動地案内	長峰山	22人
10月8日 9日	安曇野環境フェア 2022 展示参加	穂高会館	6人
10月22日	森林の里親促進事業 ユープながの「たき火でカレーライス」主催	長峰山	57人

特に来場者からの反響が大きかった活動とその理由

イベント・講座名： 森林の里親促進事業 ユープながの「たき火でカレーライス」

理由：普段の生活の中で、火に接することが少なくなっている子供やその親御さんに焚火の安全な付け方を学んでもらい、それでご飯やカレーを自分たちで作って食べることで災害時にも役立つ体験をしてもらった。

団体名	野生生物資料情報室
記入者名	植松 晃岳

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
4月22日	野鳥観察会(穂高公民館主催)	鐘の鳴る丘	20人
4月23日	オオルリ観察会 (水辺エリア・座学と観察会)	烏川溪谷緑地	23人
5月1日	野鳥観察会(森林エリア・座学と観察会)	烏川溪谷緑地	25人
6月16日	ライチョウ講座(座学)	勤福センター	15人
6月18日	ライチョウ観察会(座学と観察会)	燕岳	8人
6月22日	ライチョウ観察会(座学と観察会)	燕岳	6人
2月8日	アニマルトラッキング(座学と観察会)	烏川溪谷緑地	20人

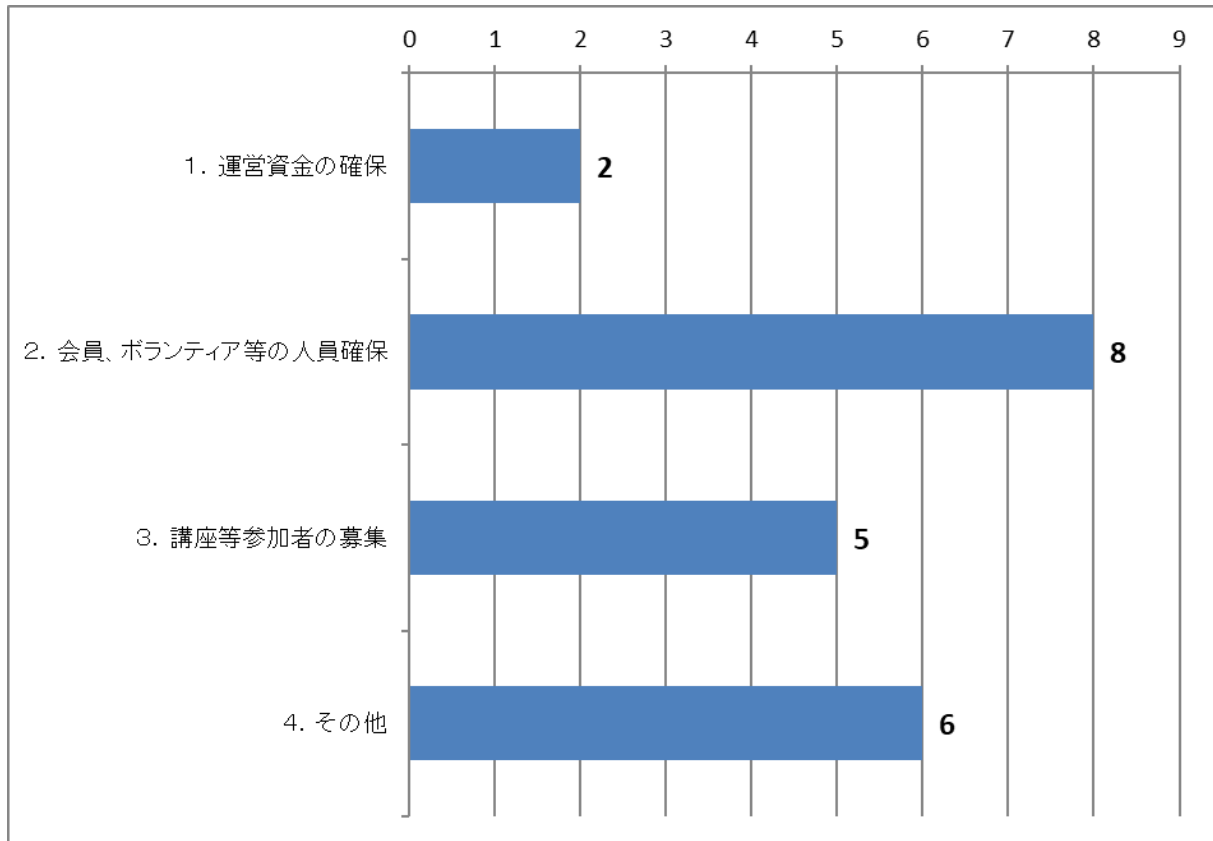
特に来場者からの反響が大きかった活動とその理由

イベント・講座名： ライチョウ観察会

理由：現在保護活動が実施されており、関心がある人が多いため

【問】貴団体の運営、イベント・講座等の実施にあたり、課題と感じていることは何ですか。(複数回答可)

1. 運営資金の確保 2. 会員、ボランティア等の人員確保
3. 講座等参加者の募集 4. その他()

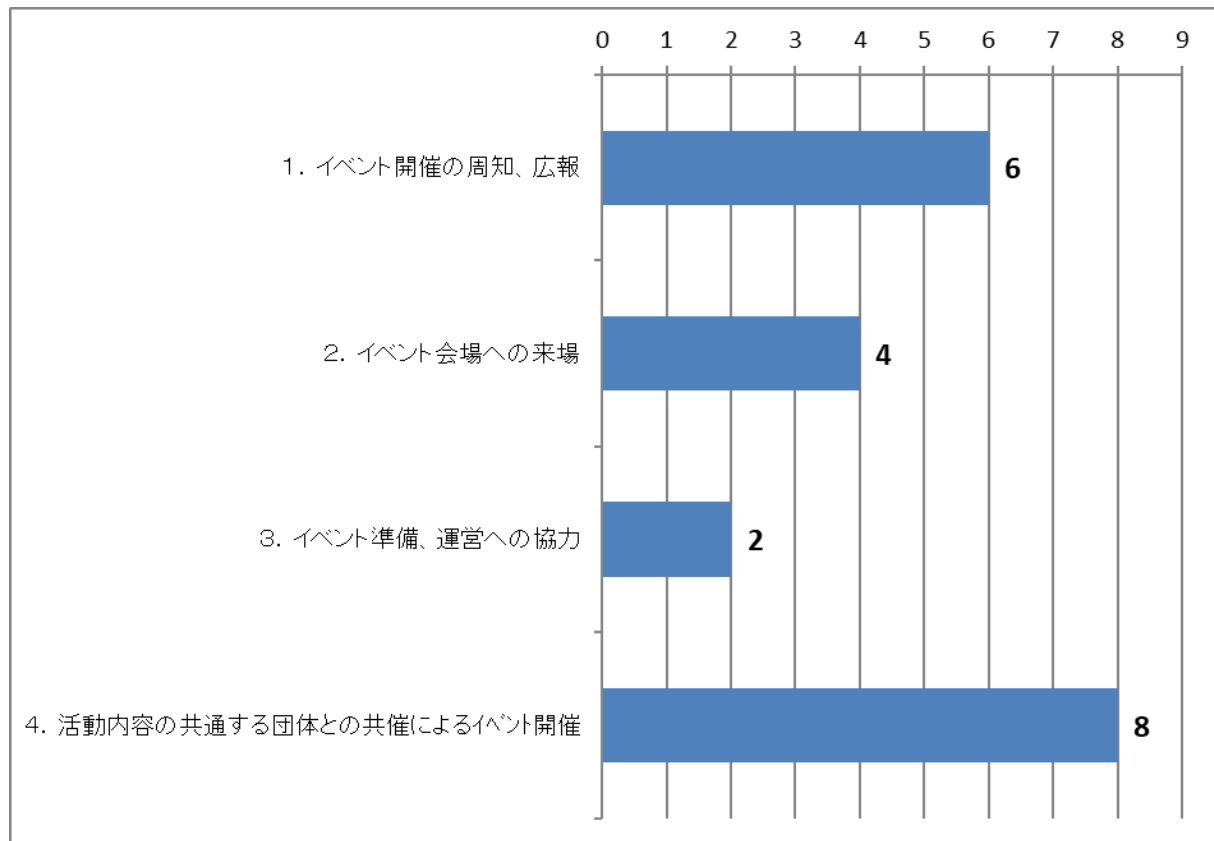


※4. その他

- ・高齢による役員の運営体制、役員の交代
- ・講義内容のアーカイブ化
- ・参加者の問題意識の向上

【問】貴団体がイベント・講座を実施する際、他のネットワーク登録団体や環境審議会などにどのようなことを期待しますか。該当する項目に○を記入してください。(複数回答可)

1. イベント開催の周知、広報
2. イベント会場への来場
3. イベント準備、運営への協力
4. 活動内容の共通する団体との共催によるイベント開催



【問】その他、今後環境市民ネットワークとして取り組んでみたい活動がありましたらご自由にご記入ください。(例:特定外来生物(アレチウリなど)の駆除活動)

- ・特定外来生物オオキンケイギクの駆除活動→一回だけでなく1か月間毎週日曜日の朝早くから1～1.5時間位で会員が交代で参加できる。
- ・地域の学校の環境教育に際し、講師としての参加を図って欲しい。
- ・小中学生を対象とした地域学習活動。
- ・食器だけでなく、不要になった衣類等の回し。特にキッズの衣服はサイズが直ぐ不要になります。サイズの合う子に無償で回していけると良い。チャイルドシート、乳母車等も。
- ・過去に確認できていた「蝶類」の再来のための多角的な活動(調査ほか)。
国営公園内(及び隣接地)の過密林における適正密度管理のための活動。
- ・森林エリアのカタクリ群落の保全活動(落ち葉掃き、林床の笹刈りなど)。
水辺エリアの特定外来種駆除(在来との交雑を回避するためセイヨウタンポポなど)。
- ・学習会(安曇野市は地下水の枯渇が課題のようですので、このことについて)。

- ・令和6年度に「むしの会」活動30周年となるので記念のイベントなどを企画したい。
- ・草原を維持することの重要性を考えるシンポジウムと市民参加による草刈りイベント。

【問】長野県が開設した「信州環境カレッジ」事業について、該当する項目に○を記入してください。

1. 既に活用した講座を実施又は計画している。
2. 次年度以降、活用した講座の実施を検討している。
3. 活用の可否を検討するため、詳細資料の提供や説明会等の機会を求める。
4. 今のところ活用する予定はない。

